

# 6月定例教育委員会 (議 題)

- |                                                         |     |                  |
|---------------------------------------------------------|-----|------------------|
| ① 令和7年度(令和6年度活動)自己点検及び評価(内部評価)の件<br>(総務課)               | ・・・ | P 1～P 1<br>および別添 |
| ② 令和7年度(令和6年度活動)自己点検及び評価(内部評価)における<br>外部委託の件(総務課)       | ・・・ | P 2～P 3          |
| ③ 佐世保市社会教育委員選任の件(社会教育課)                                 | ・・・ | P 4～P 5          |
| ④ 令和7年度「全国学力・学習状況調査」等における佐世保市及び各校の<br>結果の取扱いについて(学校教育課) | ・・・ | P 6～P 10         |

令和7年6月 定例教育委員会議題

令和7年度（令和6年度活動）自己点検及び評価（内部評価）の件

上記の件について下記のとおり提案する。

令和7年6月26日提出

佐世保市教育委員会教育長 陣内 康昭

## 1. 提案理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、令和7年度（令和6年度活動）佐世保市教育委員会の自己点検及び内部評価について提案するもの。

## 2. 提案内容

別紙のとおり

〈地方教育行政の組織及び運営に関する法律〉

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和7年6月 定例教育委員会議題

令和7年度（令和6年度活動）自己点検及び評価（内部評価）における外部委託の件

下記の者を令和7年度の外部委託候補者として提案する。

令和7年6月26日提出

佐世保市教育委員会教育長 陣内 康昭

#### 1. 候補者及び提案理由

○田中 誠（たなか まこと）

【4年目】

- ・社会教育分野、学校教育分野、教育臨床分野など、教育に関する幅広い知見による視点から評価をいただくため、「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム」より推薦いただいた。また、自己点検・評価にも精通されているため適任である。

《主な経歴》

- \* 長崎短期大学
- \* 長崎国際大学 教授
- \* 長崎国際大学 自己点検・評価委員会 副委員長
- \* 長崎国際大学 教務委員会 委員長
- ・佐世保市教育委員会の自己点検及び評価に、継続性の観点からの評価をいただきたいため。（外部評価 4年目）

○百津 眞人（ももつ まこと）

【3年目】

- ・主に義務教育に精通した方からのご意見をいただきたいため、「佐世保市退職校長くぬぎ会」より推薦いただいた。

《主な経歴》

- \* 佐世保市教育委員会教育次長兼学校教育課長
- \* 佐世保市立小佐々中学校 校長
- ・佐世保市教育委員会の自己点検及び評価に、義務教育に携わった方からの評価及び継続性の観点からの評価をいただきたいため。（外部評価 3年目）

2. 委託契約期間 令和7年7月1日～令和7年9月30日

令和7年6月 定例教育委員会議題

佐世保市社会教育委員選任の件

佐世保市社会教育委員の選任について、次のとおり提案する。

令和7年6月26日提出

佐世保市教育委員会教育長 陣内 康昭

- 1 候補者 永吉 秀行
- 2 委員任期 令和7年6月26日から令和7年12月9日まで

(提案理由)

曾和委員の5月17日辞任に伴い、その後任を選任するため提案するものです。

## 佐世保市社会教育委員 改選（案）

### ◎現在の委員

) 令和5年12月10日 ~ 令和7年12月9日

区分	氏名	推薦団体	役職等	就任年月日
学校教育の関係者	高島 秀雄 <small>タカシマ ヒデオ</small>	佐世保市小学校長会	広田小学校長	R7.4.24
	池田 利夫 <small>イケ タ トシ オ</small>	佐世保市中学校長会	光海中学校校長	R7.4.24
社会教育の関係者	濱 昭彦 <small>ハマ アキヒコ</small>	小佐々地区自治協議会	小佐々地区自治協議会 地域学校協働本部推進員	R5.12.10
	曾和 英徳 <small>ソワ ヒロノリ</small>	佐世保市PTA連合会	佐世保市PTA連合会顧問	R3.6.9
	岩崎 勢智子 <small>イワサキ セチコ</small>	佐世保市教育会	佐世保市教育会監事	R1.12.10
家庭教育の向上に資する活動を行う者	深町 なお <small>フカマチ なお</small>	佐世保市民生委員児童委員協議会連合会	佐世保市民生委員児童委員協議会連合会理事	R5.12.10
	内橋 亮太 <small>ウチハシ リョウタ</small>	佐世保私立幼稚園協会	佐世保私立幼稚園協会総務委員長/相浦・東相浦幼稚園園長	R4.2.10
学識経験のある者	小玉 智章 <small>コダマ トモアキ</small>	長崎短期大学	長崎短期大学教授	R5.12.10
	川上 貴子 <small>カワカミ タカコ</small>	NPO子どもとメディアながさき	NPO子どもとメディアながさき専務理事/長崎県メディア安全指導員/ながさきファミリープログラムファシリテーター)	R2.5.7



### ◎改選（案）

) 令和5年12月10日 ~ 令和7年12月9日

氏名	推薦団体	役職等	就任年月日
高島 秀雄 <small>タカシマ ヒデオ</small>	佐世保市小学校長会	広田小学校長	R7.4.24
池田 利夫 <small>イケ タ トシ オ</small>	佐世保市中学校長会	光海中学校校長	R7.4.24
濱 昭彦 <small>ハマ アキヒコ</small>	小佐々地区自治協議会	小佐々地区自治協議会 地域学校協働本部推進員	R5.12.10
永吉 秀行 <small>ナガヨシ ヒロユキ</small>	佐世保市PTA連合会	佐世保市PTA連合会会長	R7.6.26
岩崎 勢智子 <small>イワサキ セチコ</small>	佐世保市教育会	佐世保市教育会監事	R1.12.10
深町 なお <small>フカマチ なお</small>	佐世保市民生委員児童委員協議会連合会	佐世保市民生委員児童委員協議会連合会理事	R5.12.10
内橋 亮太 <small>ウチハシ リョウタ</small>	佐世保私立幼稚園協会	佐世保私立幼稚園協会総務委員長/相浦・東相浦幼稚園園長	R4.2.10
小玉 智章 <small>コダマ トモアキ</small>	長崎短期大学	長崎短期大学教授	R5.12.10
川上 貴子 <small>カワカミ タカコ</small>	NPO子どもとメディアながさき	NPO子どもとメディアながさき専務理事/長崎県メディア安全指導員/ながさきファミリープログラムファシリテーター)	R2.5.7

令和7年6月 定例教育委員会議題

令和7年度「全国学力・学習状況調査」等における佐世保市及び各校の結果の取扱いの件

上記の件について、次のとおり提案する。

令和7年6月26日提出

佐世保市教育委員会  
教育長 陣内 康昭

(提案理由)

令和7年度4月実施の「全国学力・学習状況調査」及び「長崎県学力調査」について、本市全体の結果や各校の結果の取扱いについて提案するもの。

(提案内容)

別紙のとおり

## 別紙

令和7年度「全国学力・学習状況調査」及び「長崎県学力調査」における佐世保市及び各校の結果の取扱いについて

### 1 佐世保市教育委員会による本市全体及び各学校調査結果の公表

(1) 佐世保市教育委員会は、本市全体の結果については、以下①及び②により公表する。

#### ①公表内容

- ・教科（国語、算数（数学）、理科、英語）の平均正答率
- ・全国学力・学習状況調査においては児童生徒質問調査及び学校質問調査のうち、本市K P Iに係る質問項目等の結果（学習意欲に関する項目、授業改善に関する項目、家庭学習に関する項目、I C Tの活用に関する項目）
- ・結果の概要及び分析
- ・結果分析を受けた本市の課題及び指導重点内容

#### ②公表方法

「佐世保市小中学校ポータルサイト」に公表する。

(2) 佐世保市教育委員会は、各学校別の結果は公表しない。

### 2 各校による自校結果の公表

(1) 各校は、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問調査及び学校質問調査のうち、次の4項目については、数値を公表するよう努める。ただし、調査人数が少なく（概ね10名未満）、個人が特定されると校長が判断する場合は、公表しない。

（①学習意欲に関する項目 ②授業改善に関する項目 ③家庭学習に関する項目 ④I C Tの活用に関する項目）

(2) 各校は、学力調査結果について、文章により公表し、併せて本調査の目的、自校の結果の分析・改善方策等も公表する。

(3) 各校は、学力調査結果について、原則として数値による公表はしないが、校長判断により公表可とする。

### 3 方針の根拠

- (1) 佐世保市教育委員会は、本市の学力調査結果の公表については、本市教育施策の改善、児童生徒の全般的な学習状況の改善につなげるため、上記1（1）のように公表する。
- (2) 本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど、教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であることから、上記1（2）のように、佐世保市教育委員会は各学校別の数値による公表はしない。
- (3) 全国学力・学習状況調査における児童生徒質問調査及び学校質問調査のうち、K P I（重要業績評価指標）に係る質問項目等の数値については、自校の児童生徒の全般的な学習状況の改善につなげることが非常に重要であり、かつ、数値公表による序列化や過度な競争は生じないと想定されることから、上記2（1）のように、各学校は自校の数値による公表を行うよう努める。
- (4) 各学校は自校の学力の結果について、結果を公表する説明責任はあるものの、数値を公表することで、序列化や過度な競争が生じ、教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であることから、上記2（2）のように、数値では公表せず文章により公表をする。この際、結果だけを示すのではなく、学力調査の本来の目的を鑑み、調査の目的や自校結果の分析、今後の改善事項などを併せて公表する。
- (5) ただし、児童生徒・保護者・地域の実態等、様々な要件から、自校の学力結果を公表することが望ましく、公表することで個人を特定されたり、序列化・過度な競争は生じたりしないと想定される場合もあることから、上記2（3）のように、校長判断により公表可とする。

### 4 方針の根拠となる考え

- (1) 令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領から抜粋

#### 7. 調査結果の取扱い

- (5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。このことを踏まえ、具体的な公表の手續等は、以下のとおりとする。

ア 教育委員会及び学校による調査結果の公表

(イ) 市町村教育委員会においては、以下のとおり取り扱うこと。

- ① 当該市町村教育委員会が設置管理する学校全体の結果について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。
- ② 自らが設置管理する学校の状況について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。この場合、個々の学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること。
- ③ 自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じて取り扱うこと。

(ウ) 学校においては、自校の結果について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。

(エ) 調査結果の公表に当たっては、以下の①から⑥までにより行うこと。

- ① 公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。
- ② 調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。
- ③ (ア) ①又は(イ) ②に基づき教育委員会が個々の学校名を明らかにした公表を行う場合、又は(ア) ②において市町村教育委員会が学校名を明らかにした公表に同意する場合は、当該学校と公表する内容や方法等について事前に十分相談するとともに、公表を行う教育委員会は、当該調査結果を踏まえて自らが実施する改善方策を調査結果の公表の際に併せて示すこと。また、教育委員会において自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合は、教育委員会は自らが実施する改善方策を速やかに示すとともに、公表する内容等について学校に指示する場合は、教育委員会は当該学

校とそれらについて事前に十分相談すること。なお、平均正答数や平均正答率等の数値について、一覧での公表やそれらの数値により順位を付した公表等を行わないこと。

④調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを明示すること。

⑤児童生徒個人の結果が特定されるおそれがある場合は公表しないなど、児童生徒の個人情報の保護を図ること。

⑥学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと。

(オ) 教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの教育委員会の判断に委ねられること。

## (2) 令和7年度長崎県学力調査実施要領から抜粋

### 7 調査結果の取扱い

#### (4) 各学校に関する調査結果の取扱いについての配慮事項

ア 県教育委員会は、各学校に関する調査結果について、これが一般に公開されることになると、序列化や過度な競争が生じるおそれや学校の実施への協力及び県民からの理解が得られなくなるなど正確な情報が得られな可能性が高くなり、調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると考えられるため、長崎県情報公開条例第7条第5号の規定を根拠として、同法における不開示情報として取り扱う。

イ 各学校に関する調査結果の示し方、公表、提供、取扱いの配慮事項、活用については、学校の設置管理者において判断することとする。

# 佐世保市教育委員会における 自己点検（内部評価）について

令和7年度版  
（令和6年度対象）

佐世保市教育委員会

# 目 次

(ページ)

## I 概要

1 点検・評価の趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	1
4 PDCA サイクルの導入	2

## II 教育委員会の活動状況

1 教育長・教育委員	3
2 総合教育会議	3
3 教育委員会会議	3
4 教育委員会会議以外の活動状況	7

## III 施策体系表

1 学校教育の充実	8
2 豊かな心を育むまちづくり	9
3 生涯学習の充実	9
4 政策を支える包括的な事務事業	10

## IV 教育委員会の政策・施策に関する点検・評価

1 教育政策の総括	11
2 施策1【学校教育の充実】	
KPI 名:全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)	14
KPI名:全国体力・運動能力調査結果(運動好き)	23
KPI 名:全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)	27
3 施策2【豊かな心を育むまちづくり】	
KPI 名:地域学校協働活動等に携わった大人の人数	33
KPI 名:健全育成事業への参加者数	36
4 施策3【生涯学習の充実】	
KPI 名:生涯学習事業への参加者数	40

KPI 名:生涯学習拠点施設の利用者数 .....	49
5【政策を支える包括的な事務事業】 .....	53
6【学校改革への取組】	
スマート・スクール・SASEBO 構想の実践 .....	64
教職員の働き方改革 .....	65

# I 概要

## 1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することとし、また、点検・評価を行う際、学識経験者の知見を活用することが規定されています。

この法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的として、佐世保市教育委員会の事務に関する自己点検及び評価を実施し、議会報告、市民への公表を行っています。

### 〈地方教育行政の組織及び運営に関する法律〉

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価の対象

佐世保市教育振興基本計画(第4期)の体系に基づき、令和6年度の「政策」、「3つの施策」、「個別の事務事業」及び重点課題としている「学校改革への取組」を点検・評価の対象としました。ただし、市長部局の所管事務については除きます。

## 3 点検・評価の方法

### (1)内部評価

「政策」、「施策」、「事務事業」それぞれについて点検・評価表を作成し、各事務事業の担当課において点検・評価を実施しました。

## (2)外部評価

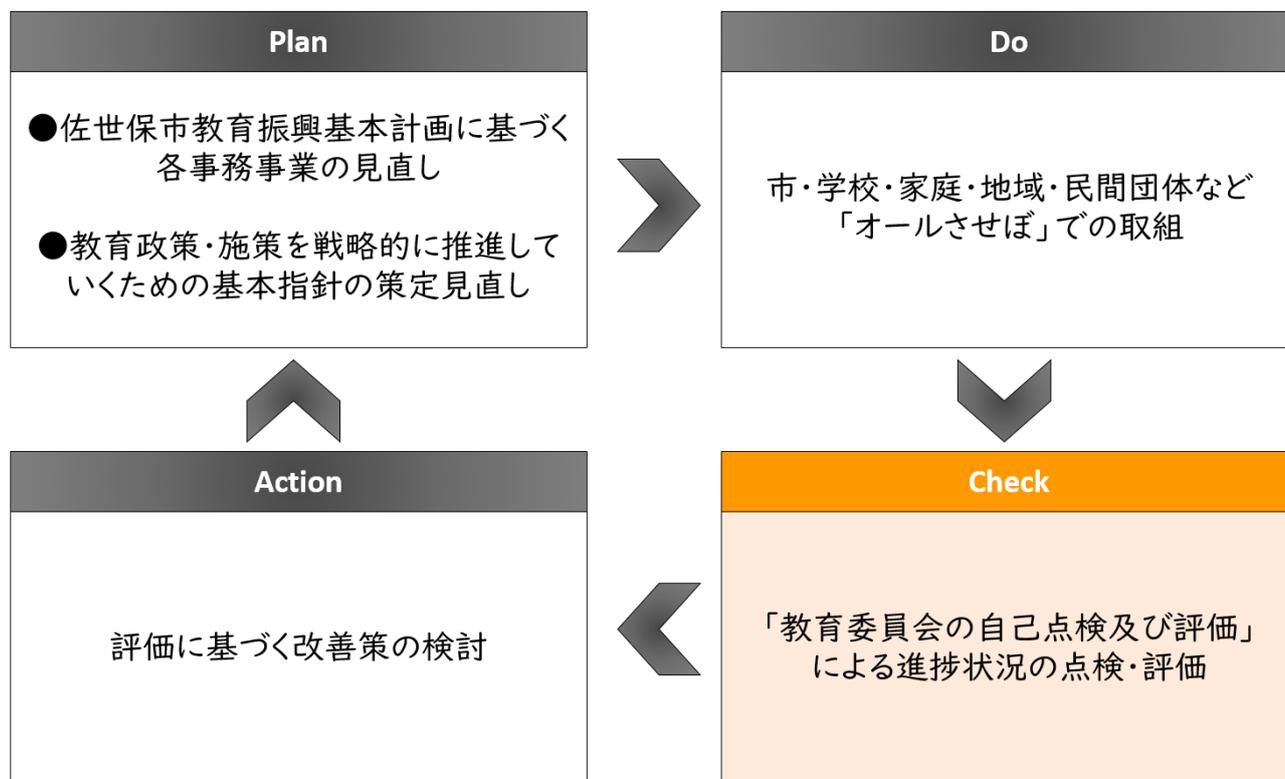
上記内部評価の結果について、2名の学識経験者に外部委託し、評価の客観性等についてご意見をいただきました。

### ◆外部評価委員名簿

氏名	役職等
田中 誠	長崎国際大学教授
百津 真人	元佐世保市教育委員会教育次長兼学校教育課長 元佐世保市立中学校校長

## 4 PDCAサイクルの導入

佐世保市教育委員会では、教育行政の運営に PDCA サイクルを導入し、結果や成果に関する見通しやより効率的な事業進捗、確かな計画性をもった教育行政の推進に努めています。



## Ⅱ 教育委員会の活動状況

### 1 教育長・教育委員

職名	氏名
教育長	陣内 康昭
教育長職務代理者	松野 廣文
委員	古賀 由樹
委員	中村 徳裕
委員	西沢 菜月

(令和6年度末現在)

### 2 総合教育会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成27年度より、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るために総合教育会議が設けられました。

令和6年度は下表のとおり2回開催しました。

開催日	出席者	協議事項
令和6年10月2日	宮島市長、陣内教育長、 松野教育長職務代理者、古賀 委員、中村委員、西沢委員	(1)ふるさと教育について(地域・企業との連携) (2)コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について (3)子どもたちの心に寄り添う支援のあり方について
令和7年2月19日	宮島市長、陣内教育長、 松野教育長職務代理者、古賀 委員、中村委員、西沢委員	(1)教師という仕事の魅力について (2)子どもを伸ばすこれからの学び

### 3 教育委員会会議

会議は毎月定例教育委員会を開催しています。定例教育委員会では、学校教育、社会教育等あらゆる教育分野での議題等について協議・検討を行っています。

また、定例教育委員会において活発な議論を行うための事前の検討素地の収集等を目的として、原則毎月前期教育委員会を開催しています。前期教育委員会において様々なテーマについて研修したことにより、委員が現状理解を深め、それにより定例の会議での議論が深まり、会議が活性化しています。

なお、必要に応じ臨時会を開催しています。それぞれの会議の開催実績は次のとおりです。

(教育委員会会議)

年度	実施回数(回)			件数(件)		
	定例	臨時	前期	議案	協議	報告
R6	12	3	9	40	14	59
R5	12	2	9	52	12	63
R4	12	3	12	31	13	68

(令和6年度開催実績)

開催日	区分	種別	事項名
R6.4.5	前期	協議	前期教育委員会年間予定について
		報告	楠栖小学校における停電事案について
		報告	ウォータースタンド(株)との連携協定の締結について
R6.4.23	定例	議題	佐世保市学校物品会計規則の一部改正の件
		協議	学校における働き方改革について
		報告	令和6年3月定例会における一般質問答弁について
		報告	令和6年度教育委員会の活動方針について
		報告	令和6年度前期教育委員会開催案について
		報告	Sasebo Expoの開催について
		報告	福井洞窟保存活用計画の策定について
		報告	佐世保市指定文化財の新規指定について
		報告	令和6年度学校訪問実施計画について
		報告	令和6年度教職員研修の利活用について
R6.5.7	前期	視察	文化財施設視察
R6.5.24	定例	議題	佐世保市社会教育委員の発令の件
		報告	工事請負契約(変更契約)締結に係る市長専決処分報告の件
		報告	Sasebo Expoについて
		報告	いのちかがやく強調月間について
		報告	令和6年度佐世保市中学校体育大会について
		報告	佐世保市における休日の部活動の地域移行及び連携について
R6.6.5	前期	協議	7月31日開催の総合教育会議のテーマについて
		報告	佐世保市立学校施設(屋内運動場)等LED化事業について
		報告	令和6年度佐世保市少年の主張大会の実施について
		報告	佐世保市立夜間中学(夜間学級)設置の方向性について
		報告	学校統合に係る校名決定について
		報告	令和6年度「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)」に対する文部科学大臣表彰について

(令和6年度開催実績)

開催日	区分	種別	事項名
R6.6.27	定例	議題	令和6年度(令和5年度活動)自己点検及び評価(内部評価)の件
		議題	令和6年度(令和5年度活動)自己点検及び評価(内部評価)における外部委託の件
		議題	総合教育センター条例施行規則の一部改正について
		報告	SASEBOグローバルキッズ・チャレンジ事業について
		報告	令和6年度読書活動ネットワーク交流会の開催について
		報告	学校教育審議会答申について
		報告	令和6年度佐世保市中学校体育大会の結果について
		報告	「あすなる教室(学校適応指導教室)」の名称変更について
		報告	国指定史跡「福井洞窟」の特別史跡指定に係る答申について
R6.7.9	前期	協議	7月31日開催の総合教育会議について
R6.7.22	定例	議題	佐世保市いじめ等対策連絡協議会等設置条例の改正について
		議題	工事請負変更契約締結の件(立神広場整備活用事業設計建設工事)
		議題	させば立神近代化歴史公園の指定管理者の指定変更の件(指定の期間)
		協議	佐世保市学校教育審議会答申について
		報告	令和6年6月定例会における一般質問答弁について
		報告	企業との連携協定について(7月26日協定締結式開催)
R6.8.6	前期	報告	立神広場整備活用事業進捗状況報告について
R6.8.27	定例	議題	令和6年度(令和5年度活動)佐世保市教育委員会における自己点検及び評価の件
		報告	令和6年度学校訪問実施計画(9月以降)について
R6.9.4	臨時	議題	佐世保市立小・中学校及び義務教育学校校則等と今後の学校教育の在り方に関するガイドラインの件
R6.9.25	定例	議題	佐世保市立小・中学校及び義務教育学校における業務改善アクションプラン(第2期)
		協議	令和7年度第21回「いのちがやく講演会」講師選定について
		報告	令和6年度佐世保市中学校体育大会(駅伝競走について)
		報告	徳育推進フォーラム開催について
		報告	少年の主張長崎県大会の結果について
R6.10.8	前期	会議	社会教育委員との合同会
R6.10.24	定例	議題	させば立神近代化歴史公園の管理に関する条例の施行期日を定める規則の一部改正の件
		議題	福井洞窟整備検討委員会条例の一部改正の件
		協議	ソールド九州2025の開催について
		報告	令和6年9月定例会一般質問答弁について
		報告	Sasebo Expoの開催について
		報告	福井洞窟の特別史跡に係る官報告示について
		報告	福井洞窟ミュージアム企画展「空から見た洞窟遺跡」の開催について

(令和6年度開催実績)

開催日	区分	種別	事項名
R6.11.25	定例	議題	金比良小学校・光海中学校の統合に係る新設予定校の校名案決定の件
		議題	世保市教育委員会文化及びスポーツ表彰規則の一部改正の件
		報告	PTA研修会・語らいの広場の開催について
		報告	佐世保市学校再編計画【第1期】の進捗状況の件
		報告	夜間学級開級に向けた進捗状況について
		報告	令和7年度学校給食費について(案)
R6.12.12	前期	協議	2月開催予定の総合教育会議について
R6.12.24	定例	議題	佐世保市通学区域審議会への諮問事項について
		議題	佐世保市学校教育審議会への諮問事項について
		報告	令和6年12月定例会一般質問答弁について
		報告	佐世保市子ども読書プラン(案)について
		報告	青少年育成研修会の開催について
R7.1.14	前期	協議	2月14日開催の総合教育会議について
		報告	佐世保市立学校給食検討委員会の開催報告について
R7.1.23	定例	議題	私立学校の助成に関する条例を廃止する条例制定の件
		議題	佐世保市立小学校、中学校及び義務教育学校条例の一部改正の件
		議題	佐世保市学校給食に関する条例の一部改正の件
		議題	佐世保市立学校教職員の人事案件について
		協議	令和7年度中学校体育大会について
		報告	立神広場整備活用事業進捗状況報告について
		報告	令和7年度成人式典について(終了報告)
	報告	令和6年度市立小・中学校及び義務教育学校卒業式(教育委員会告辞)への出席について	
R7.2.12	臨時	議題	佐世保市立中学校夜間学級設置基本方針の件
R7.2.25	定例	議題	第四次佐世保市子ども読書プランの件
		議題	佐世保市学校運営協議会規則の一部改正の件
		報告	佐世保市通学区域審議会の答申について
		報告	令和7年度使用学校体育実技教材用図書(副読本)の選定について
		報告	令和6年度研修概要報告について
R7.3.11	前期	協議	令和7年度長崎県市町村教育委員会連絡協議会理事の選出について
		協議	教育委員会の自己点検及び評価に係る新様式検討案について
R7.3.27	定例	議題	佐世保市教育委員会事務局処務規程の一部改正の件
		議題	佐世保市立学校物品会計規則の一部改正の件
		議題	佐世保市奨学基金条例施行規則の一部改正の件
		議題	佐世保市立幼稚園条例施行規則の一部改正の件
		議題	佐世保市学校給食に関する条例施行規則の一部改正の件
		報告	佐世保市まちづくり促進事業補助金交付要綱の一部改正について

※秘密会案件は除く

## 4 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員会に関わる会議、研修会、式典に出席し、教育委員として活動しました。

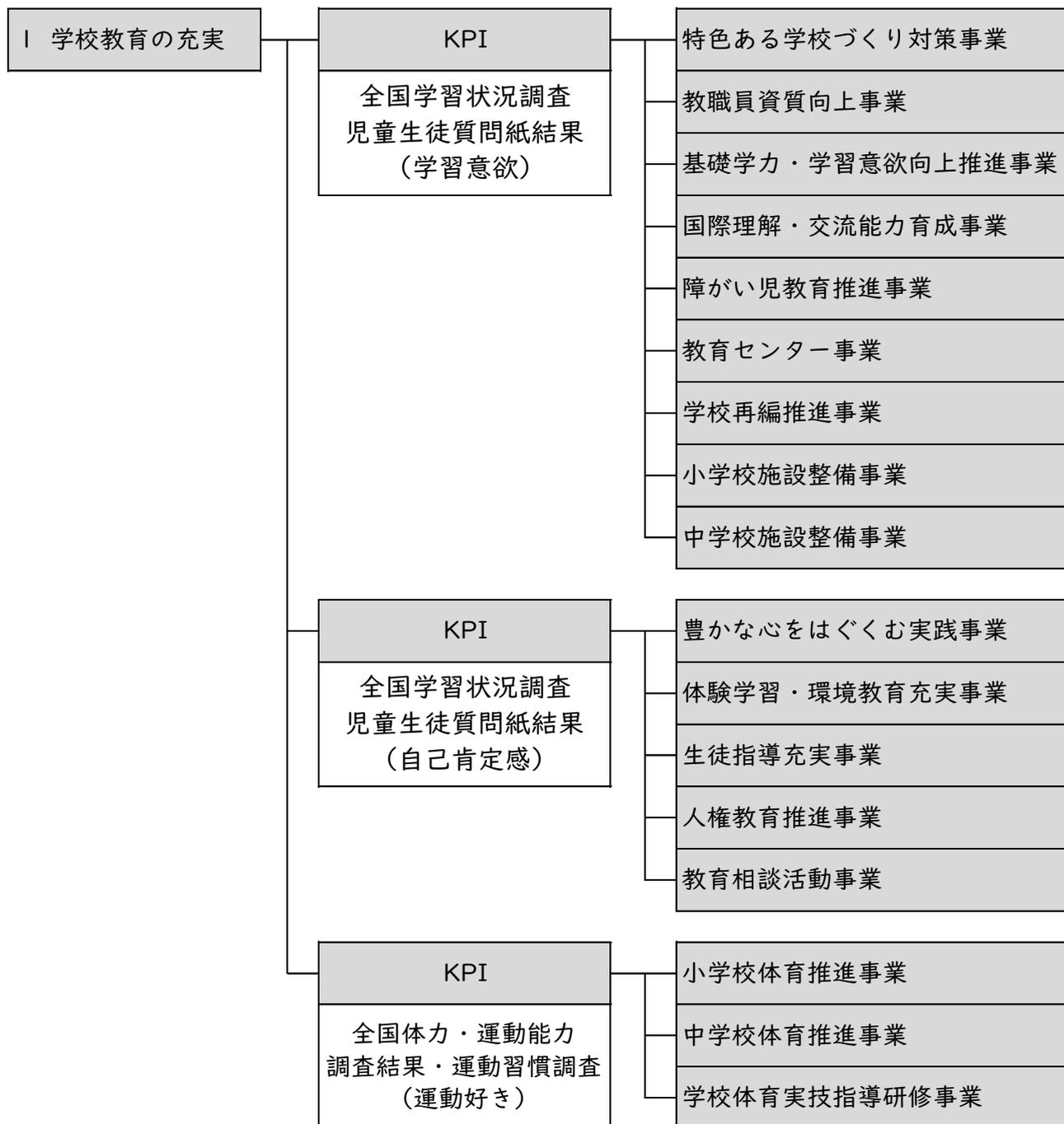
種別	主な内容	回数
会議	九州地区市町村教育委員会連合会総会・研修大会、教科用図書採択審議委員会、総合教育会議、長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会・研究大会、教育委員・社会教育委員合同会、青少年育成連盟研修会など	8
学校訪問	船越小学校、歌浦小学校、猪調小学校、世知原中学校、江迎小学校、吉井南小学校、吉井北小学校、早岐中学校、広田中学校、鹿町中学校、宮小学校、中里中学校	12
式典	成人式典、小学校卒業式、中学校卒業式、あすなろ教室開級式、市制施行記念式典、佐世保市永年勤続及び教育功労者表彰、教育委員会文化及びスポーツ表彰式ほか	8
その他	いのちを見つめる集会、いのちかがやく講演会、中学校体育大会、少年の主張大会、教科書採択審議会ほか	17

### Ⅲ 施策体系表

#### 1 学校教育の充実

##### 【施策名】

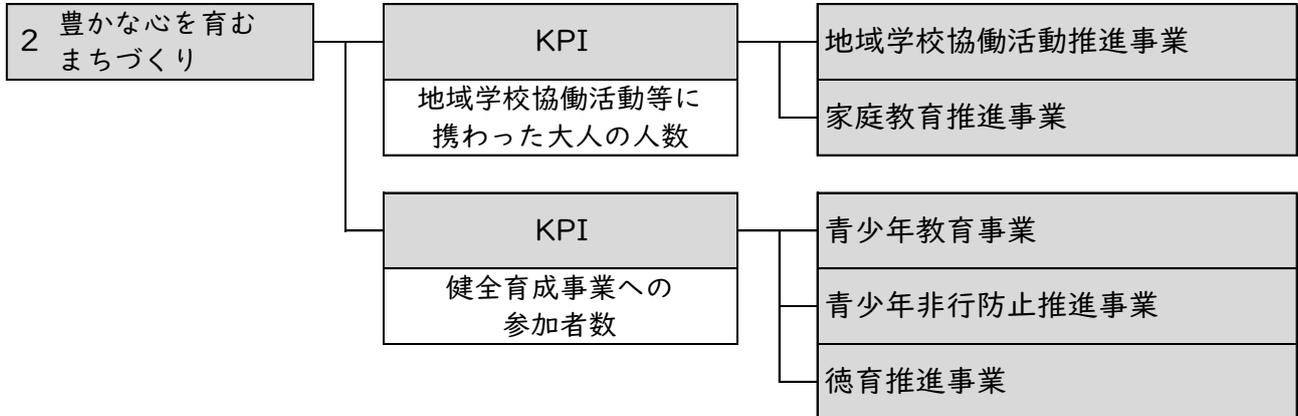
##### 【事務事業名】



## 2 豊かな心を育むまちづくり

### 【施策名】

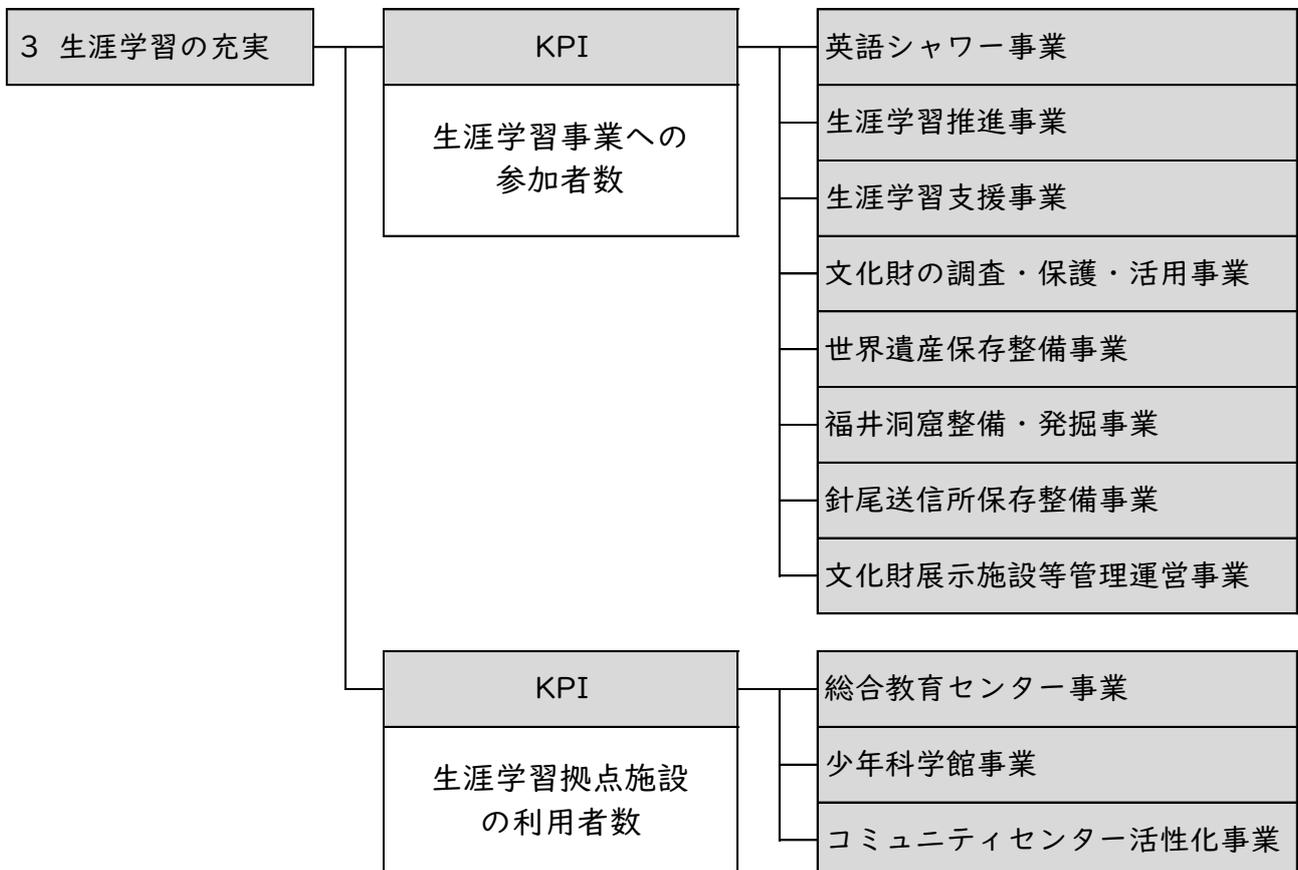
### 【事務事業名】



## 3 生涯学習の充実

### 【施策名】

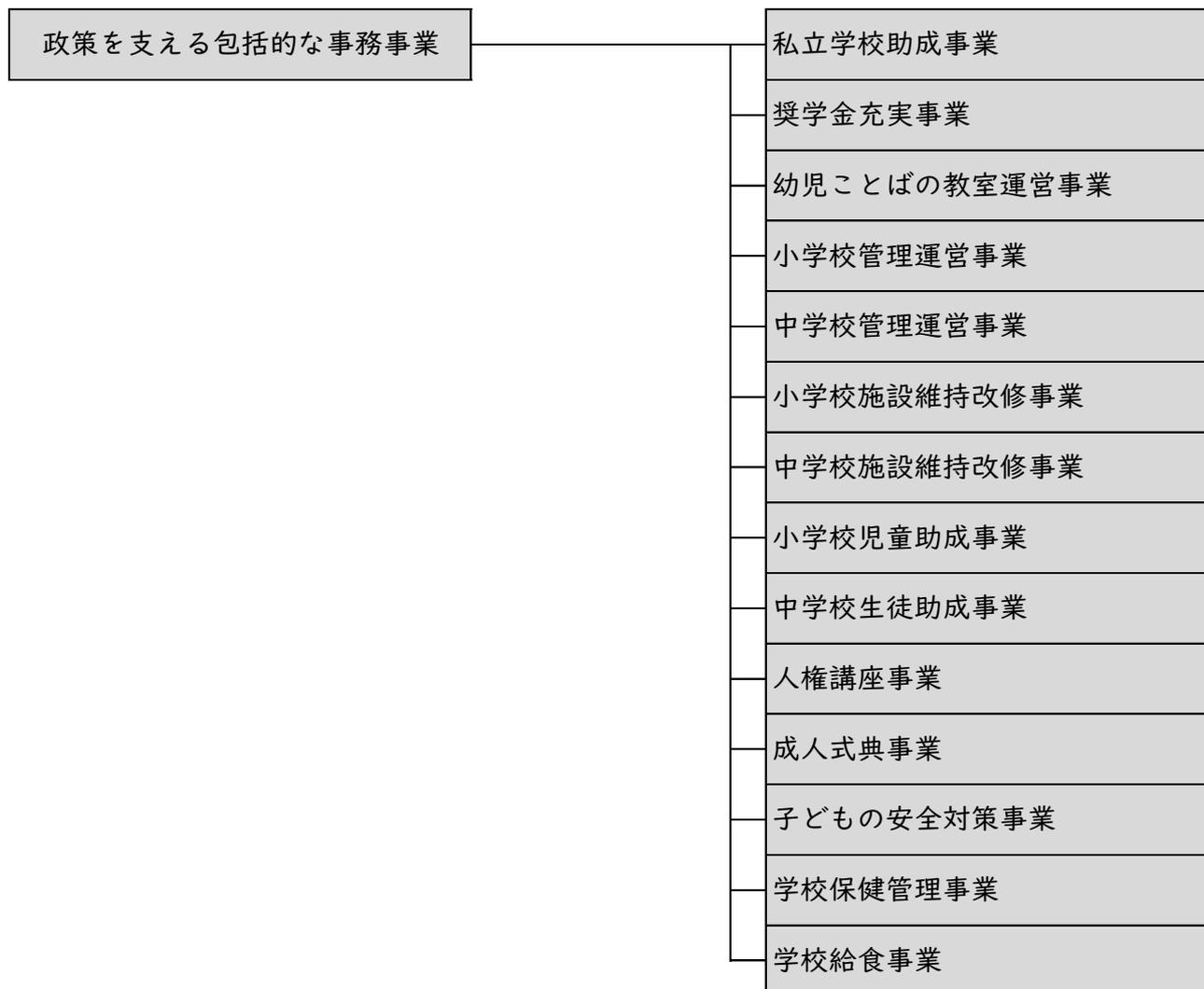
### 【事務事業名】



## 4 政策を支える包括的な事務事業

【施策名】

【事務事業名】



## IV 教育委員会の政策・施策に関する点検・評価

### 1 教育政策の総括

#### 点検・評価シート【教育政策の総括】/令和6年度

社会指標名	市民1人あたりの生涯学習に関わった回数
社会指標算出式	生涯学習事業への参加、生涯学習拠点及び拠点スポーツ施設の利用者数/本市人口
実績値(令和6年度)	5.8回/人
目指す方向	向上
参考値(令和4年度)	5.0回/人

#### 教育政策の総括

- 令和6年度は「第7次佐世保市総合計画後期基本計画」及び「佐世保市教育振興基本計画(第4期)」の初年度に当たり、新たな計画に基づいた教育政策の推進に取り組みました。
- 各施策において、様々な事業に取り組んだ結果、社会指標の向上に寄与することができましたが、教育政策における7つのKPIのうち、目標値を達成したKPIは2つとなっています。KPI向上に寄与できるような事業展開を図れるよう、改善検討を行っていきます。
- 「施策2 豊かな心を育むまちづくり」におけるKPI「地域学校協働活動等に携わった大人の人数」については、コロナ禍前に設定した目標値と実績が乖離しているため、令和7年3月の文教厚生委員会の意見を踏まえ、令和7年度は20,000人を現実的な目標として、能動的な参加者の増加に向けて取組を図っていきます。
- 成果として、令和6年10月の福井洞窟の「特別史跡」の指定、令和7年4月の祇園中学校夜間学級の開級などこれまで積み上げてきた取組が実を結んだと考えています。

#### 成果と課題（学校教育分野）

##### 【学校教育分野】

- 全国でも例の少ない不登校生徒を受け入れる体制を整備し、祇園中学校に夜間学級として令和7年4月に開級することとなりました。
- 「不登校やいじめ等の学校支援と虐待やヤングケアラー等家庭支援を一体的に、かつ、組織や生育時期に関わらず連続的に対応する組織の創設」について、学びの多様化学校の設立と併せて今後も研究・検討を重ねる必要があります。
- 校舎、設備等の老朽化に対応するため、平準化を図りながら計画的に長寿命化や改築等を実施しており、また、社会環境変化に対応するため、空調設置範囲の拡大や体育館照明のLED化を進めています。
- 少子化による学校規模の適正化や適正配置及び老朽化対策などの観点から、学校再編、給食調理施設の再構築を継続して進める必要があります。
- 中学生給食費無償化について、第3学年の無償化を実現し、完全無償化へのスタートを切りました。
- スマート・スクール・SASEBO構想のもと教職員の研修の実施や、ニーズに対応したオンデマンド動画等研修資料を整備することにより、授業で毎日ICTを活用している割合や教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力、また、授業にICTを活用して指導する能力等において一定の向上が見られました。

# 点検・評価シート【教育政策の総括】/令和6年度

## 成果と課題（社会教育分野）

- コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を核とした学校地域の新たな連携について、一定の拡充は進んでおり、令和6年度は、13地区19校（5地区5校増加）での導入となりました。
- 「文化財保護、活用」については、福井洞窟が国の特別史跡の指定を受けたことで、これを契機とし、文化財を活用した生涯教育に関する意識の醸成や、市外から人を呼び込むリソースとしての活用を充実させる必要があります。

## 令和7年度以降の方向性（施策1：学校教育の充実）

- 佐世保市教育大綱の理念である「児童生徒、教職員、市民のウェルビーイングの向上」、また、「新しい時代に求められる学校教育の実現」については、一層の充実が望まれます。新学習指導要領の方向性を見据え、未来を切り開く資質・能力の育成に取り組みます。
- 令和7年度は、「新しい時代の学校教育の実現」、「多様性を包摂する教育の実現」、「強みを生かした教育の質の向上」、「教職員支援と働きがい改革」の4点に重点を置き、学校教育の充実を図ります。
- 自立（自律）的に学び続ける力を育むうえで、授業観の転換が求められます。教育センターにおける研修の充実に加え、新たな学力向上プランを策定し、一層の授業改善に取り組みます。
- 多様な児童に細やかに対応する誰一人取り残さない支援のために、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育補助指導員、心の教室相談員を増員するとともに、指導教諭の派遣、国際理解指導員の派遣を拡充します。
- 学校の特色や強みを生かした質の高い教育活動を実現するために、探求的な学びの充実やカリキュラムマネジメントを推奨します。
- 教職員のメンタルヘルスに向け、教育相談やカウンセリングの活用促進を図るとともに、学校問題の解決を支援する体制について検討を行います。
- 教職員の超過勤務時間の縮減のために、中学校部活動の地域展開を推進します。
- 校舎・設備等の老朽化対策については、「適正配置・保全実施計画」に基づいた整備を行っていきます。
- 屋内運動場におけるスマートロックの導入については、令和8年度本格稼働に向けて、令和7年度は機器設置工事等を行い、地域活用の利便性と将来に向けた利用の持続性を向上させます。
- 屋内運動場における空調整備については、令和8年度から一部を先行運用をスタートさせるため、工事の早期着工と早期運用を目指します。
- 学校再編については、「佐世保市学校再編計画（第1期）」に基づき、吉井南小・吉井北小、金比良小・光海中、鹿町小・歌ヶ浦小・鹿町中を先行して進めることとしています。令和7年度中に校名選定等、条例改正を目指し、再編の実現性を高めます。
- 給食センター整備については、学校再編と連動させて進めていくこととし、北部エリア、中部エリアのそれぞれの給食センターの整備計画を策定し、方針決定、議会への方針説明を目指します。
- 不登校やいじめ等の学校支援と虐待やヤングケアラー等家庭支援を一体的かつ連続的に対応する組織の創設にあたっては、青少年教育センターの今後の在り方や学びの多様化学校の方向性等、令和7年度中に方針を定め事業展開を行います。

# 点検・評価シート【教育政策の総括】/令和6年度

## 令和7年度以降の方向性（施策2:豊かな心を育むまちづくり）

●既存事業のスクラップアンドビルドの検討を行いながら、学校再編や部活動の地域移行・地域連携の流れを活かすことも視野に入れ、CSマイスターのノウハウを活用し、研修会等を行い、学校・家庭・地域が連携した教育コミュニティの拡大を図っていきます。

●KPI「地域学校協働活動等に携わった大人の人数」については、コロナ禍前に設定した目標値と実績が乖離している状況を踏まえると、KPIの達成は事実上困難であるため、令和7年3月定例会の文教厚生委員会の意見のとおり、令和7年度の目標値は当初の「29,000人」であるところを、「20,000人」を現実的な目標値として取組を進めます。既存の参加者の能動性を高める取組を強化するとともに普及啓発により、新たな活動地区や参加者の増加に向けた誘導を図っていきます。

## 令和7年度以降の方向性（施策3:生涯学習の充実）

●まちづくり促進事業補助金など一部の事業については縮小廃止を視野に入れ、関係団体とも協議しながらあり方を検討していきます。

●文化財の保護活用については、適切な保存、継承を行うとともに、文化財の魅力向上や地域の歴史や郷土についての普及啓発を図り、生涯学習の参加につなげていきます。

●福井洞窟の特別史跡指定記念事業を実施するとともに、針尾無線塔、させぼ立神近代化歴史公園などについては、周遊の仕掛け等を行う観光的な側面と連携を行っていきます。

●下記2つのフィールドミュージアムを核とした佐世保の多様な文化財の保存と活用を図ります。

### ①洞窟遺跡群を基軸としたフィールドミュージアム

洞窟遺跡日本一のまち佐世保(洞窟王国させぼ)福井洞窟を中心に泉福寺洞窟、岩下洞穴他への周遊

### ②日本遺産「鎮守府・佐世保」を基軸としたフィールドミュージアム

「させぼ立神近代化歴史公園」をコアエリアとし俵ヶ浦地区や針尾地区などのサテライトエリアへの周遊

## 令和7年度以降の方向性（政策を支える包括的な事務事業）

●中学生給食費無償化について、令和7年度は第2学年まで対象を拡大し、令和8年度に完全無償化を行います。

●国の令和8年度小学校給食費無償化、段階的な中学生への拡大の動向も留意し進めていきます。

## 令和7年度以降の方向性（学校改革）

●新たなAI型ドリルやクラウド環境を活用した様々な学習系コンテンツの活用推進、また、スマート・スクール・SASEBO構想NEXT(GIGA第2期)を策定し、個別最適な学びと協働的な学びを一層推進します。

●令和2年度に全児童・生徒に整備した1人1台端末が令和8年2月でリース契約満了を迎えることから、令和8年度には、新しい端末の整備・更新が必要となります。本市の実情を踏まえ、最適な機器の整備ができるよう研究・検討に取り組みます。

## 2 施策1(学校教育の充実)

# 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	学校教育の充実
-----	---------

KPI名	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
------	-------------------------

KPIの実績値						単位:%	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
	58.6	61.9			70.0		
<b>KPI算出式</b> 全国学習状況調査児童生徒質問紙調査において「学ぶことが好きですか」の問いに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒(小6、中3)の割合							

KPI分析	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6年度は目標61.0%に対し、実績61.9%と、目標とする値を達成する等、今年度の進捗としては順調です。</li> <li>●小学校では高学年になるにつれ「学習意欲」が低下する傾向にあります。学習への動機づけや自立(自律)的に学ぶ態度を育む指導により改善を図ります。</li> <li>●KPI向上の阻害要素として、「国語、算数の授業が面白くない」「勉強する意義を実感できない」「授業が分からない」「学校での勉強が嫌い」「遊びへの関心が高い」「安心して学べる環境がない」等が考えられます。約40%の児童生徒の意欲向上をいかに実現するかが今後課題として一層大きくなります。</li> </ul>	

施策に対する総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「特色ある学校づくり対策事業」において魅力的な教育資源の活用推進を財政面から支援することにより児童生徒の学習意欲の向上に寄与することができました。</li> <li>●「教職員資質向上事業」や「教育センター事業」において、教職員研修、教育推進研究委託、教育DX推進に取り組むことにより、教職員の指導力が向上し、ひいては児童生徒の意欲向上につながりました。</li> <li>●「基礎学力・学習意欲向上事業」において、学校司書の配置や指導主事の学校派遣により基礎学力の定着や学習意欲の向上に寄与することができました。</li> <li>●「国際理解・交流能力育成事業」の新規事業「英語検定受験料補助事業」を通じて、受験者が前年の約2倍になるなど、学校を離れた場所においても自身を高めようとする意欲の喚起が伺えました。</li> </ul>	

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校対策は喫緊の課題であり、学習意欲の喚起とともに重要施策として取り組みます。組織の再構築により関係課等との連携を強化し増加傾向に歯止めをかけます。</li> <li>●学習意欲の向上につながる学力向上新組織とプランを策定し、質の高い授業実践に努めます。</li> <li>●各学校のカリキュラムマネジメントを支援し、地域課題に参画する探究的な学びを推奨します。</li> <li>●AIドリルの導入と授業改善により個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校対策の一策として、学びの多様化学校を設立し、誰一人取り残すことなく、学習の場を保障します。</li> <li>●校内教育支援センター、英語検定受験料補助事業ともに拡充を目指します。</li> <li>●特別支援教育補助指導員の増員により、特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実を図ります。</li> <li>●学校司書の増員を図り、読書に親しむ児童生徒を育むとともに学習意欲の向上に寄与します。</li> </ul>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	特色ある学校づくり対策事業
----	-------	-------	---------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)17ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●校長のリーダーシップのもと、保護者や地域と連携した教育活動の実践が図られており、以下の項目においては、特に大きな効果が得られています。</p> <p>●事業成果の調査を行ったところ、以下の項目について「教育活動に効果が特に大きかった」との回答が得られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の具現化…95.7%(67校/70校)</li> <li>・地域に根ざした教育活動の充実…90.0%(63校/70校)</li> <li>・地域とともにある学校づくりの推進…90.0%(63校/70校)</li> </ul>	

課題	Check
『「主体的・対話的で深い学び」の実現』、「学びの動機付け」や「幅広い資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実」という目的の実現のため、教科との関連を意識した地域の教育資源(人・もの・こと)を活用した体験活動など各学校の特色かつ魅力ある学校づくりが必要です。	

原因	Check
学年間、教科間等、教科横断的、俯瞰的に教育課程全体を捉えた体験活動など各学校の特色かつ魅力ある学校づくりとなっていない一面があります。	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 「学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、各教科の教育内容と地域の教育資源(人・もの・こと)を活用した体験活動等を効果的に結び付けることで、カリキュラムマネジメントの視点から教育活動の充実を図ります。</p> <p><b>【効果】</b> 教科との関連を意識した体験活動等を効果的に推進することにより、子どもたちが探究的な学びをとおして、学習意欲を向上することができます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	教職員資質向上事業
----	-------	-------	-----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)18・19ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内6校を学力拠点校に指定し、計6回の授業公開を実施しました。市内各校の管理職及び研究主任が参加し、研究協議や情報交換など行うことで、教職員の指導力向上や意識改革を図りました。</li> <li>●統合型校務支援システムを活用することで、出欠管理(日計板記入や出席簿作成等)の業務が年間で約33時間削減されたり、日誌(学校日誌や保健日誌等)の管理業務が年間約52.6時間削減されました。</li> <li>●ICT支援員の配置により、ICTを活用した校務及び授業の支援の充実を図りました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「子ども自身が端末を活用すること」を目標に授業改善に取り組んできましたが、教職員のICT活用指導力や活用意識には、格差が生じています。</li> <li>●統合型校務支援システムの一部機能(予定表や週案、通知表作成等)に関して、学校ごとの活用状況が異なっており、働き方改革が十分に進んでいない学校もあります。</li> <li>●令和6年度以降、ICT支援員による「授業支援の充実」を目標に掲げてきましたが、業務の割合としては、障害対応や校務支援等が多くなっているという現状があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで土台にあった「教師主導型の授業スタイル」が定着している教職員がおり、アップデートは容易ではないという現状があります。</li> <li>●統合型校務支援システムに備わっている機能を十分に把握できていないため、活用に踏み切れない学校があります。また、週案等の一部機能に関しては、特別支援学級や複式学級に対応した様式を備えておらず、現場から「使いたくても運用できない」という声が上がっています。</li> <li>●様々なデジタルコンテンツが増えた結果、困り感を抱えている教職員もおり、ICT支援員に対して、授業支援以外のサポートを求める機会が依然として多いという現状があります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合教育センターと情報を共有しながら、出前研修等の充実を図ることで、引き続き、教職員の意識改革を図ります。</li> <li>●令和6年度リーディングDXスクール事業研究指定校だった春日小学校に「校務DX」をテーマとした実践発表をしていただいたところ、非常に好評でした。その中で、統合型校務支援システムを活用した事例も多く紹介していただきました。次年度も引き続き、先進的な実践に取り組んでいる学校を紹介する場を確保することで、統合型校務支援システムの活用も含めた働き方改革を推進していきます。</li> <li>●次年度は、AI搭載型ドリルの新規導入を予定しているため、ICT支援員に対する授業支援の要望も自ずと高まるものと見込んでおります。ICT支援員に対して、AI搭載型ドリルの活用方法に関する研修を実施することで、サポート体制を充実させ、授業支援の機会を増やしていきます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	基礎学力・学習意欲向上推進事業
----	-------	-------	-----------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)20・21ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査において、「国語(算数)の学習は好き」と回答した児童生徒の割合の平均は61.9%でした。(目標:61%、全国平均:61.1%)</li> <li>●心の状況調査CBTにおいて、学習意欲に関する項目の標準スコアは50.7でした。(全国平均を50とするもの)</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度の目標は達成しましたが、継続して学習意欲の向上が図れるかが課題です。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校訪問や学校支援において、各学校の授業の指導を行っていますが、授業改善が進んでいない(現行の学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の視点)学校が一定数あります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校訪問における授業支援の際には、授業改善を通して児童生徒の「学習意欲の向上」を図るべく、共通理解を図ったうえで指導にあたります。また、各種調査結果も踏まえたものとします。</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒が主体的に学ぶことにより、「学習が好き」と感じることができます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	国際理解・交流能力育成事業
----	-------	-------	---------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)22ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●全中学校・義務教育学校及び小学校へALT(JET-ALT10名・市雇用ALT2名)を派遣するとともに、市内在住の外国人や英語が堪能な日本人を小学校へ派遣し、児童生徒が英語を用いてコミュニケーションを図る場面や異文化に触れたり学んだりする場面を設定することができました。</li> <li>●Challenge English Camp(希望中学生対象)及びActive English Camp(希望学校対象)を実施し、英語のコミュニケーション能力の更なる育成を図るとともに、日常の授業で学んだ成果を発揮する場を提供することで、英語に対する有用性や学習意欲の喚起を図りました。</li> <li>●日本語支援を必要とする児童生徒に対し、国際理解指導員を派遣することで、日本語能力の向上だけでなく、学校生活への適応の面でも大きく寄与しました。また、該当児童生徒だけでなく、学校と保護者間の連絡の支援など、包括的な支援を行いました。</li> <li>●英語検定試験を受験する中学2年生(義務教育学校8年生)を対象に、検定料(上限3,000円)を補助しました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が自ら「英語を使いたい」「英語を学ぶことが楽しい」と思えるようにするためには、日々の授業改善が必要であり、なかでも、異文化の生きた素材であるALTの効果的な活用が課題であると認識しています。</li> <li>●外国にルーツのある児童生徒数は増加傾向にあり、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行っているところではありますが、日本語指導ができる国際理解指導員に限られており、なおかつ十分な派遣回数確保できない予算的な課題があります。</li> <li>●英語検定試験検定料補助事業については、周知時期が遅かったことから、申請者数が212名にとどまったという課題があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ALTは様々な国から来ており、ALTという職に就くまでの背景も様々であるため、まずはALT自身が英語学習に有効な言語活動やその進め方を学び、各学校での授業に生かせるようになる必要があります。</li> <li>●日本語指導をしていただける人材の確保が課題です。現在は、長年国際理解指導員として携わってくださる方々や佐世保市で日本語教室を開催しているボラティア団体のご紹介に頼っている現状です。</li> <li>●英語検定試験検定料補助事業にかかる周知が遅くなったことについては、英検要綱の制定やオンライン申請の準備に時間を要したためです。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ALTの資質向上を図ります。令和6年度より、Challenge English CampをALTが企画・運営するようにしました。準備段階からALT同士でアイデアを出し合い、よりよい企画にするために練り上げていくことで、研鑽を積み機会とします。また、夏に来日する新ALTにとっても良い研修の場となります。</li> <li>●ひきつづき、日本語指導に携わっていただける方々の確保に努めます。また、国際理解指導員派遣にとどまるのではなく、令和7年度は、小型翻訳機を新たに1台購入し、学校が導入を検討するための貸出機とします。また、日本語指導に有効な教材を紹介できるように整備をすすめていきます。</li> <li>●英語検定試験検定料補助事業については、令和7年度は事業にかかる周知を早めます。また、令和7年度は対象学年を中学校及び義務教育学校(後期課程)全学年に拡大し、対象受験回を第2・3回に拡大します。第3回受験申込時期に再度周知を行います。</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ALT主導のできる言語活動が増えることで、英語のみを用いた言語活動が増え、英語によるコミュニケーション力の向上が期待できます。</li> <li>●外国にルーツのある児童生徒など、多様な背景をもつ子どもたちが、学校生活により適応します。</li> <li>●英語検定試験の受験者(申請者)数増加により、外国語への興味関心の高まりが期待されます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	障がい児教育推進事業
----	-------	-------	------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)23ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別な教育的支援を必要とする児童生徒や保護者へ個別指導や相談等を行うことを通して、一人一人の教育的ニーズに応じた環境で学ぶことができるように努めました。</li> <li>●令和6年度は、前年度から開設した小学校2校の自校通級指導教室、中学校北部の巡回による通級指導の活用も充実し、利用者は増えています。通級指導教室への送迎が難しいご家庭にとって、活用が可能になり、通級が難しい児童・生徒も支援を受けることができました。特別支援教育補助指導員49名を小学校42校、中学校16校に配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の実態やニーズに応じた支援を実施しました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別支援学級の児童・生徒の在籍が増加傾向にあります。また、通常の学級においても支援を必要とする児童・生徒が在籍し、各学校において、支援体制の構築を図り取り組んでいますが、対応が難しい状況があります。</li> <li>●障がい児の教育については、特別支援学級や通級指導教室に加え、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒もおり、その一人一人に対して、適切な指導や必要な支援をどう充実していくかが課題です。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者の特別支援教育への意識が高まっています。また、発達障害に対する社会的な認知が向上していることが考えられます。</li> <li>●「一人ひとりのニーズに応じた支援をする」というインクルーシブ教育の考えが広がり、通常学級の中の配慮が必要な児童・生徒が支援の対象として明確になっていることが挙げられます。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●就学相談から就学时健康診断、教育支援委員会と児童生徒の支援に向けて、学校や関係機関と一層の共通理解と連携に努めます。</li> <li>●巡回による通級指導教室(情緒障がい・言語障がい)や自校通級など、実態やニーズに応じた通級指導教室による支援体制の充実を図ります。</li> <li>●特別補助指導員による支援の充実を図ります。</li> </ul> <p>以上の取組により、より適切な教育環境で効果的な支援ができるようにします。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	教育センター	事務事業名	教育センター事業
----	--------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)24ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●KPI全国全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(「国語(算数)の学習は好き」と回答した児童生徒の割合)は、61.9%でした。 【目標:61% 全国平均:61.1%】</p>	

課題	Check
<p>●令和6年度はKPIの目標達成を図ることができました。しかし、令和7年度のKPIの目標値は64%、令和8年度は67%と設定しており、目標達成に向けてさらなる授業改善が必要です。 ●「令和6年度全国学力・学習状況調査」における各教科の結果は両校種ともに、全国平均を下回っています。また、同調査における児童生徒質問紙結果「主体的・対話的で深い学び」にかかる児童生徒の意識も、全国平均を下回っています。</p>	

原因	Check
<p>兼任所員制度・継続研修が安定稼働し、より実践的で主体的な研修の実現を進めてきました。しかし、実践を伴う研修に主体的に参加する教員だけでは、研修内容がすべての学校に届いていないという懸念があります。各学校で実践を通して実感を伴った授業観の転換が必要です。</p>	

解決策と効果	Action
<p>●より多くの教員に対して、「教える授業」から「学びを起こす授業」への転換を図ることが必要です。そのために、研修内容を学校現場に転移させる取組を充実させます。 ①研究主任、兼任所員、拠点校指導教員等、校内で授業改善の核となる教員に対し「学びを起こす授業」について研修し、校内でのOJTを通じた授業観の転換を促進する役割を担ってまいります。 ②校内研修での活用を目的に、当事者意識をもって考えることができるオンデマンド動画を提供します。 ③経年研修、継続研修、授業改善研修該当者等に「学びを起こす授業」を目指した構想シートに基づき、授業実践、研究協議、児童・本人への意識調査・報告書を求めます。 ④要望がある学校に対しては出前研修を実施します。 ⑤授業づくりに課題を感じている教員については、個別の相談を受け授業づくりを伴走します。 ⑥好事例の動画や構想シートを、研修や羅針盤等で公開し、授業づくりを支援する一助とします。 ⑦これらの取組については、引き続き長崎大学藤井先生をアドバイザーに迎え、指導を仰ぎながら、研修等のブラッシュアップを図り、取り組みの改善を図って参ります。 ●以上の取組を通して教員の「学びを起こす」授業への転換を図り、授業力を向上させることで、全国学力調査及び質問紙調査の数値を向上させ、児童生徒や教師のウェルビーイングの実現に貢献します。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	新しい学校推進室	事務事業名	学校再編推進事業
----	----------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)25・26ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1期再編計画における7地区において、年次計画に基づき取組内容の確認を行いました。</li> <li>● 第1期再編計画スケジュールについての周知を6地区において19回行いました。 (山澄地区4回、西地区6回、吉井地区4回、宇久地区2回、鹿町地区2回、宮地区1回)</li> <li>● 文教厚生委員会協議会で、佐世保市学校再編第1期対象地区におけるスケジュール・校名決定の流れについての報告を行いました。</li> <li>● 西地区において校名検討委員会を3回開催しました。公募の方法や地区から上がってきた校名案を検討していただき、候補案を教育委員会に上程し、教育委員会案を決定しました。</li> </ul>	

課題	Check
<p>再編を進めるにあたり、以下のような課題が各地区において生じています。</p> <p>【推進室(市教委)としての課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 通学区域のあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>→再編に伴う通学区域の見直しについて(学校教育課)</li> <li>→新校区における通学路の整備及び体制について(総務課・学校保健課)</li> </ul> </li> <li>② 給食提供のあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>→再編に伴う給食提供食数の増減への対応(学校保健課・給食C・教育施設課)</li> </ul> </li> </ul> <p>【その他行政または地域を含めた全体の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 放課後児童クラブのあり方について→子ども未来部・地元地域との連携 敷地内へのクラブ設置許可について(教育施設課)</li> <li>② 統合後の跡地活用について→地元からの要望や財務部等、関係部局との連携</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>①再編に伴い、従来、通学路としていなかった道路を新たに通学路として設定する必要性が生じ、また、遠距離通学者が発生します。</li> <li>②再編に向けた整備の過程で、一時的に他校児童を受け入れる学校の給食提供能力不足が生じてきます。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和7年度において、対象地区の保護者・地域の方に説明会を開催し、児童の安全面から理解を求めていきます。また、新たに生じる通学路整備については、次年度実施に向けて、長崎県及び市の横断的な取組の中で進めていきます。</li> <li>②令和7年度において、学校再編の進捗等に合わせながら、新給食センター整備や現給食センターの拡充など、必要な事業を計画的に推進します。</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒数を一定規模の集団とすることで、多様な考えに触れながら、必要な学力や社会性を身につけられる望ましい学校規模を目指すことができます。</li> <li>●老朽化した全ての学校を建替えていくことは難しいことから、学校再編により、一定の学校数に減らし、改修サイクルの確立を可能とすることで、児童生徒の安全確保を図ることができます。</li> <li>●通学区域の見直しなど、学校再編を検討するタイミングで通学区域と地区自治協議会の活動を整理することで、学校と地域のよりよい連携を目指すことができます。</li> <li>●学校再編に合わせて、給食センター整備を進めることで、多様なアレルギー対応食の提供、衛生面で国基準を満たすドライ方式の採用、配送時間と食数・光熱水費の適正化、運用リスク(現給食センターの改装などへの対応)が可能となり、安心・安全な給食提供環境が創出されます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(学習意欲)
----	---------	-----	-------------------------

課名	教育施設課	事務事業名	小学校施設整備事業・中学校施設整備事業
----	-------	-------	---------------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)27ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●外壁改修工事(天神小学校ほか7校)</li> <li>●管理諸室空調更新(三川内小学校ほか3校)</li> <li>●日野小学校校舎改築・長寿命化事業(グラウンド整備工事ほか)</li> <li>●針尾小学校校舎改築等事業(給排水設備等移設工事ほか)</li> <li>●清水中学校校舎改築等事業(校舎本体工事)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●屋上防水工事(吉井南小学校ほか1校)</li> <li>●特別教室等空調整備(広田中学校ほか11校)</li> </ul>

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在、学校教育に求められる機能や役割が多様化・複雑化している中、学校施設や設備について、維持改修(築年数20年超の施設の外壁改修・屋上防水改修等の部位別改修の年次的な計画に基づく実施、築年数40年超の施設においては、躯体の健全性調査等に基づく長寿命化改修等)を適時行う必要があります。</li> <li>●避難所としての役割も担う学校施設に対し、空調をはじめとした設備の整備について市民のみならず、国からも求められています。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●優先度に基づき年次的に学校施設の老朽化対策の改修等を進めているものの、築年数が40年以上経過している校舎及び設備が増加しており、限られた財源内で一斉改修などの対応を実施することが困難な状況であることから、事後的な対策を講じざるを得ない状況があります。</li> <li>●地球沸騰化とも言われる現代において、熱中症などの対策を含めた対応が求められています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設の健全化のため、老朽化対策・防災機能の強化対策を優先度や施設状況等から計画的に、また、予防保全の視点をもって進めることにより、コストの平準化、安全・安心な教育環境の確保を実施していきます。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市立学校の施設や設備について、外壁改修などの大規模な改修工事による老朽化への対策や、施設設備の更新・整備を適切に行うことにより、安全・安心な教育環境が確保でき、教育の充実に寄与しています。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	学校教育の充実
-----	---------

KPI名	全国体力・運動能力調査結果（運動好き）
------	---------------------

KPIの実績値						単位:%	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
85.3	86.8	86.8			90.0		
KPI算出式		全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは好きですか」の問いに対し、「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合					

KPI分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>●達成度、進捗はおおむね順調です。</li> <li>●令和5年度と実績値は同じとなっています。目標値では87.8%としていたところ1%足りていない状況です。</li> <li>●個別では、中学校2年生の男子は5年度の90.1%から92.7%と伸びているものの、女子では77%から76.2%と下がっている状況です。小学校では、男子は5年度の93.8%から92.3%と下がり、女子は86.3%から86%とともに下がっています。</li> <li>●全体の平均では令和3年度84%、令和4年度85.3%、5年度86.8%と順調に伸びていたところですが、5年度から6年度が横ばいとなっている状況です。過去と現在を比較して事業としては取組を継続しながら経過を注視していく必要があります。</li> </ul>

施策に対する総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動好きについては、令和3年12月に「佐世保市の義務教育におけるスポーツ推進の基本方針」を策定し、令和4年度から小学校体育大会を廃止して、新たに「佐世保市小学校体育学習サポーター派遣事業」を開始しています(水泳、器械体操、陸上を実施)。この取り組みの中で、運動やスポーツの「楽しさ」や「できる喜び」を感じる指導の充実を行っており、実施後のアンケートにおいて、運動のやり方をうまくなる方法を「知っている」と回答した割合が34%から56%に増加、「知らない」と回答した割合は、8%から3%に減少しており、事業の取り組みとしては一定の効果は上がっています。</li> <li>●中学校においては、スポーツ庁が推進する抜本的な部活動改革への対応について実施中の段階であり、いずれの事業においても、事業を継続して実施しながら、施策への検証を行って行く必要があります。</li> </ul>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
7年度については、小・中ともに基本的な取り組みを維持しながら検証することとしていることから、大きな事業変革は行っていません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校については、現状を維持しつつアンケートでの結果を注視しながら実施結果を検証していきます。</li> <li>●中学校については、休日の部活動の地域展開に合わせた、目標設定の整理なども検討していく必要があります。</li> </ul>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国体力・運動能力調査結果(運動好き)
----	---------	-----	---------------------

課名	学校保健課	事務事業名	小学校体育推進事業
----	-------	-------	-----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)28・29ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>小学校の体育授業に、専門的な指導力を持つ指導者を派遣して、子どもたちに直接的に関わりながら運動のコツやポイントを教えるとともに、教職員の指導力向上を図ります。本事業の実施により、運動やスポーツが好きな子どもたちを増やし今後の運動習慣を推進させていくことが、KPIの向上に貢献します。</p>	

課題	Check
<p>生涯にわたって運動に親しむ資質能力の基礎である、「運動やスポーツが好き」が子どもたちを増やすための工夫や、教職員の指導力向上が課題となります。</p>	

原因	Check
<p>体力テストでは、友達との比較や平均的な位置づけとの比較など、自己肯定感を感じにくく、体力テストの結果が低調なだけで、運動が嫌いになることも考えられます。運動が苦手、嫌いと自分の中で決めるのではなく、自己の可能性や、自己の目標、運動への考え方を教えていく必要があります。</p>	

解決策と効果	Action
<p>●体育の授業の中で運動のコツやポイントをしっかりと教え、できないことができるようになる経験を増やすなど、誰もが「体を動かす楽しさ」や「できる喜び」を体感できるような授業に向けた工夫・改善を行いながら、その効果を子どもたちが感じれるように取り組みます。</p> <p>●これらを効果的に実現するために、専門的な指導力を持った者が運動のコツやポイントを教える小学校体育学習サポーター事業を継続して取り組んでいきます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国体力・運動能力調査結果(運動好き)
----	---------	-----	---------------------

課名	学校保健課	事務事業名	中学校体育推進事業
----	-------	-------	-----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)30ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学生が運動部活動の成果を競う体育大会を実施します。また、課外活動の活性化を図るため、課外体育活動等振興補助金並びに外部指導者の活用にかかる補助金を交付します。本事業の実施により、運動やスポーツが好きな子どもたちを増やし今後の運動習慣を推進させていくことが、KPIの向上に貢献します。</li> <li>●さらに、令和6年と7年度に休日の部活動について、段階的な地域移行や地域連携を目指すために、モデルパターンの実証を行いながら、課題などを抽出し、佐世保市としての休日の部活動の在り方を検討します。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動の楽しさを学んだり、体力の向上を図ったりするとともに生涯にわたって運動を続けていこうという気持ちを育むことに寄与する、中学校体育大会の開催の在り方についての検討が課題となります。</li> <li>●休日の部活動の地域展開・地域移行に向けての取組が今後一層推進されることが予想されるため、様々なニーズに対応し、本市の実態に即したモデルの検討が課題となります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校体育大会については、競技の特性等から総合開会式に参加する生徒が限定されていることに加え、午前の総合開会式で体調不良になり、午後の競技に影響が出た生徒もいることから、すべての学校から開会式の在り方の検討が望まれています。</li> <li>●競技の多様化(地域スポーツクラブへの移行等)から、本大会に出場しない生徒が増加する中で、教育課程としての位置づけにより、学校単位で行動せざるを得ず、好きな競技を応援できない実情があります。生徒の主体的な応援の機会を求める要望が生徒・保護者からあったと答えた学校が16校あり、教育課程の位置づけについては検討が必要です。</li> <li>●大会の連続した日程により、選手生徒の健康管理面や平日に協力いただくスタッフの不足や暑さへの対策として、冷房空調を希望する競技も増加しており、総合開会式を含め熱中症への対策に課題があります。</li> <li>●休日の部活動の地域展開については、佐世保市の各地域の中学校部活動の実情に即したモデル・パターンの検討が必要となります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校体育大会の課題への対応として、令和7年度より、全生徒参加の相浦陸上競技場を主会場とした総合開会式は開催せず、各競技ごとの開会式を開催します。また、大会日程についても、教育課程としての位置づけを行わず、5月第4週、6月第2週及び第3週の土・日に競技を実施することで、選手の生徒は大会に参加し、応援する生徒は、公共交通や保護者の協力を受けながら、土・日に好きな種目の応援が可能となる環境を創出します。</li> <li>●日程を土・日開催とすることで、選手の休養やけがの予防などへの体調管理への配慮が可能となるとともに、日程を分散化することで、空調が整った施設を利用できる競技が増え、暑さへの対応も可能となり、審判などのサポートいただける方の増加も見込めることとなります。</li> <li>●休日の部活動の地域展開については、関係団体と連携しながら様々なパターンの実証を行い、成果や課題等を吟味しながら、本市のモデルの確立を目指します。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国体力・運動能力調査結果(運動好き)
----	---------	-----	---------------------

課名	学校保健課	事務事業名	学校体育実技指導研修事業
----	-------	-------	--------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)31ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>体育学習専門の講師を招き、体育・スポーツに対する学習指導の講習及び実技指導を行い、教職員の指導技術の向上を図ります。子どもたちに直接的に関わりながら運動のコツやポイントを教える教師の指導力が向上することで、子どもたちに運動やスポーツの「楽しさ」や「できる喜び」を感じさせ、今後の子どもたちの運動習慣を推進させていくことが、KPIの向上に貢献します。</p>	

課題	Check
<p>生涯にわたって運動に親しむ資質能力の基礎である、「運動やスポーツが好き」が子どもたちを増やすための工夫や、教職員の指導力向上が課題となります。</p>	

原因	Check
<p>小・中学校の教師が参加しやすい環境を創出するために、実施時期の設定や講師の選定、種目の選択等の検討が望まれています。</p>	

解決策と効果	Action
<p>よりニーズの高い研修を実施するため、小・中の体育研究部との連携を密にしながら、継続して事業を展開します。</p>	

# 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	学校教育の充実
-----	---------

KPI名	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
------	--------------------------

KPIの実績値						単位:%	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
	82.7	83.9			90.0		
KPI算出式		全国学習状況調査児童生徒質問紙調査において「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒(小6、中3)の割合					

KPI分析
<p>●令和6年度は目標84.0%に対し、実績83.9%と、達成度は99.9%となりました。目標とする数値を超えることはできなかったものの、全国の数値が83.7%であることから進捗としては順調であると認識しています。</p> <p>●自己肯定感の重要性については、学校教育審議会からも提言として示されたところであり、全ての学校と目指す方向性を共有することができたことが一定の成果につながったものと分析しています。</p> <p>●KPI向上の阻害要素として考えられるのは、「児童生徒の称賛される機会の不足」「成功体験の欠如」「他人との比較による劣等感」「ネガティブな思考」「家庭環境、トラウマ、コンプレックス」等であることから、約16%の児童生徒の中にあるこれらの認識の改善を図ることが今後一層求められます。</p>

施策に対する総合評価
<p>●「豊かな心を育む実践事業」を通じて、生命尊重や人生を輝かせる生き方に関する道徳性を涵養したことで、自己肯定感の向上に寄与しました。</p> <p>●「体験学習・環境教育充実事業」の自然体験や環境についての学び、さらに生まれ育った故郷のよさにふれながら郷土愛を育むことで、自己肯定感の向上に努めました。</p> <p>●「生徒指導充実事業」においては、スクールカウンセラーの配置・派遣、心の教室相談員の配置を行いました。また令和6年度の新規事業として校内教育支援センターを10校に開設し、指導員20名を配置しました。悩みを抱える生徒への早期対応により速やかに解決を図り、自己肯定感の維持に努めました。</p>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
<p>●令和7年度から心の教室相談員を2名増員し、14校に配置することとし、生徒の悩みに寄り添いながら早期解決に努めます。</p> <p>●令和7年度のいのちかがやく講演会は、アルカスSASEBOでの全体講演会に加え、中学校等への派遣型の講演会を開催し、児童生徒の自己肯定感の向上に資します。</p> <p>●令和7年度からSSWの増員による派遣回数の一層の充実を図ります。</p>	<p>●校内教育支援センターについては、令和6年度の新設に対する肯定的な意見が強くあります。ニーズに応える一層の運営の充実を図るとともに、SSR増設や指導員の増員に努めます。</p> <p>●学びの多様化学校の設置については、不登校対策はもとより、総合的に家庭を支援する複合型施設等、利用者のニーズに応じた施設となるよう検討をすすめます。</p>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
----	---------	-----	--------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	豊かな心を育む実践事業
----	-------	-------	-------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)32ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「いのちを見つめる強調月間」から「いのちかがやく強調月間」へと名称を変更し、活動の充実を図りました。</li> <li>●市内小・中学校及び義務教育学校において、教育週間の企画や運営、ゲストティーチャー、安全対策等、取組に当たって連携した保護者や地域住民、関係機関の関係者の総数(延べ人数)は、小学校・義務教育学校では46校1,483人、中学校では24校517人となりました。</li> <li>●いのちかがやく講演会を令和6年6月22日に開催し、約1,000名(前年度:約450名)の参加がありました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「いのちかがやく強調月間」だけで終わるのではなく、年間を通して「特別の教科 道徳」の時間を中心に、教育活動全体で、自己の生き方についての考えを深める学習の場を効果的に展開していく必要があります。</li> <li>●いのちかがやく講演会では、参加人数の大幅な増加がありました。が、児童生徒の参加が十分ではありませんでした。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己肯定感の向上は即効性はなく、様々な場面で多様な他者との関わりの中で、少しずつ形成されていくものであり、年間を通して取り組んでいく必要があります。</li> <li>●アルカスSASEBOが会場であり、住んでいる場所によっては児童生徒だけでは参加が難しい面もあります。保護者同伴で来場している児童生徒もいましたが限定的でした。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間を通して、教育活動全体で取り組んでいくことができるよう、カリキュラムマネジメントが進むよう、研修会等で学校に働きかけます。</li> <li>●いのちかがやく講演会の在り方を見つめ直し、従来のアルカスSASEBOでの講演会に加え、希望する学校へ講師を派遣する「派遣型いのちかがやく講演会」を実施し、児童生徒に命の大切さや重みについて考える機会を設けます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
----	---------	-----	--------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	体験学習・環境教育充実事業
----	-------	-------	---------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)33ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●ふるさと歴史発見学習(中学1年)では、市内のすべての中学校及び義務教育学校26校、1,982名の生徒が参加しました。そのうち、福井洞窟ミュージアムを訪問した学校は18校あり、全体の69.2%でした。生徒アンケートでは、『「ふるさと佐世保」に対する理解や郷土愛が高まった。(やや高まった)』という回答が94.9%でした。</p> <p>●ふるさと環境・自然体験学習(小学4年)は市内のすべての小学校及び義務教育学校46校、1,973名の生徒が参加しました。乗船体験やビジターセンターでの自然体験学習をとおして、ふるさと佐世保の自然・環境に対する関心を高めました。</p>	

課題	Check
ふるさと歴史発見学習のアンケートでは、上記の肯定的な回答のうち、『やや高まった』という回答が半数を占めています。主体的に学ぶ意識が低いことが課題です。	

原因	Check
「郷土の歴史や文化に対する理解や郷土に対する誇りと愛情を育てるとともに、ふるさと佐世保市の発展を願う態度を培う」という目的を生徒が理解できていないためです。	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】 各学校においては、単なる体験活動に留まることなく、事前・事後学習で学びが深まるよう指導します。</p> <p>【効果】 生徒が学びの目的を理解した上で体験学習をすることで、郷土に対する理解や愛情が高まります。また、郷土の良さに加え、そこで生活をする自分自身の良いところを見つめなおすことができます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
----	---------	-----	--------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	生徒指導充実事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)34ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内教育支援センター事業、心の教室相談員事業、教育相談員派遣事業等により、専門相談員や支援員が児童生徒の悩みや不安の解消に努め、いじめや不登校等の防止に一定の効果がありました。</li> <li>●いじめや不登校、虐待など、様々な課題を抱える児童生徒や糧について、各種機関と連携し、改善を図りました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5年度分までの調査結果から、不登校の増加傾向が続いています。</li> <li>●生徒指導上の問題に対して学校だけの解決が困難なケースも多くあります。</li> <li>●いじめや不登校等を単に児童生徒の心の問題とせず、教職員や保護者を支援していく体制整備が必要です。また、本市子ども未来部、長崎県の佐世保子ども・女性・障害者支援センターなどの関係機関との情報連携及び行動連携が重要となります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの個性や家族形態の変容、保護者の教育に関する考えの多様化など、多くの要因があり、教職員、児童生徒、保護者だけの解決が困難なことがあります。</li> <li>●家庭・地域・交友関係などの環境の課題から、虐待やヤングケアラー、問題行動等につながる場合があります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●本市子ども未来部、長崎県の佐世保子ども・女性・障害者支援センター、警察、医療機関等多くの関係機関と連携を図るとともに、スクールカウンセラやスクールソーシャルワーカー等の専門相談員の派遣を効果的に活用します。</li> <li>●既存事業の「心の教室相談員」や「教育相談員派遣事業」の充実、及び令和6年に新設した「校内教育支援センター」や令和7年に開設予定の「夜間学級(夜間中学)」の効果的な活用を図るとともに、「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)」の設置を研究し、誰一人取り残さない学びの保障を実現するための教育環境の充実を図ります。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
----	---------	-----	--------------------------

課名	学校教育課	事務事業名	人権教育推進事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)35ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●講演会や研究大会等の実施により、教職員及び保護者(市民)の人権意識の高揚を図り、研究・研修等の充実を図ります。</p> <p>●令和6年度は、西九州大学の西村教授に「子どもの『こころ』を守る」という演題で講演をいただきました。また、大野中学校の尾崎教諭に校内教育支援センターについての実践発表を行っていただきました。81名の教職員、保護者、一般の方の参加がありました。</p>	

課題	Check
<p>●児童生徒の人権意識の向上を図り、社会情勢の諸課題(いじめ、不登校、非行等)に対応できる態度の育成が求められています。</p> <p>●各学校の実態や子どもの発達段階に応じた人権教育を推進していますが、学校での問題行動が多様化・複雑化しており、一度の啓発で効果が出るというものではないため、知識の習得にとどめず、子どもたち一人一人が差別や偏見を受けた人々の苦しみや悲しみ等を感じる人権教育の継続的な取組が必要となります。</p>	

原因	Check
<p>●不登校、問題行動等の増加は未だ深刻な状況であり、インターネット(SNS)上のいじめや誹謗中傷などの人権侵害も発生しています。そのため、発達段階に応じた人権尊重の意識を高め、偏見や差別のない社会づくりに取り組む実践力を身に付けさせることが重要です。身近な問題を取り上げて真剣に考え、解決を図っていくなど、人権教育の一層の充実を図り、子どもたち自らの実践的態度を育成する必要があります。</p>	

解決策と効果	Action
<p>●児童生徒の人権意識の向上を図り、社会情勢の諸課題(いじめ、不登校、非行等)に対応できる態度を育成するために、学校で人権問題に関する講師の招聘が積極的に取り組めるように、人材バンクや人権問題に関する教材の紹介を行います。</p> <p>●児童生徒の実践的態度の育成のため他機関と連携し、家庭や地域、学校と連携・協働を図ります。</p> <p>●一人一人が人権について正しく理解し尊重しあう感性を、生涯にわたり様々な場で身につけること及び地域を取り巻く環境や児童生徒の発達段階に応じた人権教育をすることによりKPIIに貢献します。</p> <p>●教職員の研修や各学校での校内研修及び研究活動を通して、児童生徒の心の育成と人権教育に対する意識の高揚及び指導力の向上を図ることにより、KPI 達成に貢献します。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	学校教育の充実	KPI	全国学習状況調査児童生徒質問紙結果(自己肯定感)
----	---------	-----	--------------------------

課名	青少年教育センター	事務事業名	教育相談活動事業
----	-----------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)36・37ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校等の相談窓口担当として4名の教育相談員を配置し、264件の相談に対応しました。</li> <li>●市内小中学校の児童生徒の家庭等環境改善に働きかけるスクールソーシャルワーカー7名を配置し、12,866件対応を行いました。</li> <li>●あすなろ教室については194回開設しました。また各地区コミセン等でサテライトあすなろ教室を204回開設し、150名の児童生徒がのべ3,959回通級しました。</li> <li>●自宅に閉じこもりがちな児童生徒に関わるメンタルフレンドについては、14名の児童生徒に対し49回の派遣を行いました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内10の中学校に設置された校内教育支援センター設置により、当センターあすなろ教室の通級生は若干減少したものの、サテライトの利用者数は、延べ1,000人近くとなり、その需要は年々増加しており、今後も増加することが予想されるため、さらに充実した支援体制が必要です。</li> <li>●不登校については、各学校や支援機関等との連携が不可欠であり、児童生徒の居場所づくりや、安心して学べる場・環境の提供、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員等の効果的な活用などが必要です。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校等の要因が、多種多様化しており、支援形態も柔軟な体制が必要になっています。</li> <li>●不登校児童生徒の背景には、生活困窮や保護者が抱える問題等が、その原因に繋がっています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校に足が向かない児童生徒に適切に対応するために、各学校の早期対応やあすなろ教室(教育支援教室)や支援機関等との連携、安心して学べる場・環境の提供が必要であり、各中学校区単位でのスクールソーシャルワーカーの常時配置や、あすなろ教室への専門カウンセラーとスーパーバイザーの配置、あすなろ教室の分教室を市内数か所に常設設置できるよう検討を進めます。</li> <li>●学校や家庭、関係機関が連携して児童生徒に寄り添い社会的自立に向けた支援を継続的に行うことが重要であり、課題や困り感を抱える子どもや家庭に対して、教育・福祉の両面にわたり、一体化した継続的かつ伴走型の支援・対応を実現していくことが必要です。そのためには、福祉部門と一体となった相談窓口や支援体制が必要であり、構築に向けて、関係機関としての整理、検討を進めます。</li> </ul>	

### 3 施策2(豊かな心を育むまちづくり)

## 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	豊かな心を育むまちづくり
-----	--------------

KPI名	地域学校協働活動等に携わった大人の人数
------	---------------------

KPIの実績値						単位:人	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
10,692	16,365	21,592			30,000		
KPI算出式		地域学校協働活動に携わった大人の人数+家庭教育推進事業に参加した大人の人数					

KPI分析
<p>放課後子ども教室の人数は回復傾向にはあるものの平成30年度の6割程度にとどまっており、地域学校協働活動全体で令和5年度と比較すると協働本部数が増えているにもかかわらず、参画者数は約千人減少しています。</p> <p>「地域学校協働活動等に携わった大人の人数」については、コロナ禍前に設定した目標値と実績が乖離している状況を踏まえるとKPIの達成は事実上困難であるため、R7年3月定例会の文教厚生委員会の意見のとおり、R7年度の目標値は当初の29,000人であるところを、「20,000人」程度を現実的な目標値として取組を進めます。既存の参加者の能動性を高める取組を強化するとともに普及啓発により、新たな活動地区や参加者の増加に向けた誘導を図っていきます。</p>

施策に対する総合評価
<p>コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を核とした学校地域の新たな連携について、一定の拡充は進んでおり、令和6年度は、13地区19校(5地区5校増加)での導入となりましたが、設置校、参加者ともに広がり欠ける状況です。</p> <p>また社会が複雑に多様化する中、家庭環境も大きく変化し、PTAの目的や必要性が問われています。</p>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
<p>コミュニティ・スクール及び地域学校協働本部の実効性を高め、能動的参画者を増やしていくため、文科省CSマイスターを招聘し、導入各校や地域への指導・助言、伴走支援を行うとともに、未導入校を含む全校に対して、各種研修会等を通じて制度認識の深化を図ります。</p>	<p>既存事業のスクラップアンドビルドの検討を行いながら、学校再編や部活動の地域移行・地域連携の流れを活かすことも視野に入れ、CSマイスターのノウハウを活用し、研修会等を行い、学校・家庭・地域が連携した教育コミュニティの拡大を図っていきます。</p>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	豊かな心を育むまちづくり	KPI	地域学校協働活動等に携わった大人の人数
----	--------------	-----	---------------------

課名	社会教育課	事務事業名	地域学校協働推進事業
----	-------	-------	------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)40ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ・スクールと両輪をなす地域学校協働本部をこれまでの8地区14校に加え、新たに5地区5校に導入(13地区19校)し、地域学校協働活動を実施しました。</li> <li>●協働本部導入地区において、学校と地域の連携・調整や各種活動のコーディネート等を行う地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための仕組みづくりに努めました。</li> <li>●地域学校協働活動に携わった大人の数は10,583人(本部:3,924人、子:5,967人、未:692人)となり、令和5年度から協働本部数が増えているにもかかわらず、参画者数は約千人減少しています。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちを地域で見守り心豊かに育むため、教育振興基本計画にも市内全校への拡大を謳っていますが、コミュニティ・スクール導入校及び協働活動への参画者ともに広がり欠けており(ボランティアの顔ぶれ固定化、高齢化、一部ボランティアの負担偏重)、人材を恒常的に確保できる体制づくりが求められます。</li> <li>●学校と地域の意識(目線)を合わせ、取組の実効性を高め、能動的参画者を増やす必要があります。</li> <li>●地域住民が学校に参画することへの不安(ある種の敷居の高さ)があります。</li> <li>●短期的に学校の負担増となる面があり、積極的な導入につながっていません。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動が目指すものを学校・地域・家庭で共有(目線合わせが)できていません。</li> <li>●地域学校協働活動の目的や活動の周知が不足しており、地域住民が学校や地域でどのような活動が行われているのか、またどのように参画できるのかが十分に伝わっていません。</li> <li>●学校側の認識が変われない。「地域とかかわるのは大変」→「地域のおかげで楽になった・よかった」に変わることが理解できていません。その一歩を踏み出せません。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 文科省CSマイスターを招聘し、学校教育課と連携して、コミュニティ・スクール導入校や協働本部に対する指導・助言、伴走支援を行い、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の制度認識の深化を図ります。</p> <p><b>【効果】</b> 有識者の指導助言と先進事例等を通じて、目指すべき地域の姿を明確に認識することで、学校と地域の意識を合わせ、能動的参画者を増やしていく等、既に導入している各校や地域は活動の実効性を高め、予算ありきではない取組の最適化とモデルの確立を図ります。 導入を検討している未導入校に対しては、各種研修会等を通じて制度認識の深化を図り、取組拡大を促進します。</p> <p><b>【解決策】</b> インターネット(ホームページなど)の活用やチラシの配布による広報強化します。</p> <p><b>【効果】</b> 地域住民が具体的に何をどういう風に行うのかを明確に周知し、参加意識の向上を図ります。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	豊かな心を育むまちづくり	KPI	地域学校協働活動等に携わった大人の人数
----	--------------	-----	---------------------

課名	社会教育課	事務事業名	家庭教育推進事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)41ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て講座・家庭教育講座の開催 小・中・義務教育学校(68校) 参加者数計2,695人</li> <li>・PTA連携事業参加者数 1,029人(動画視聴含)</li> <li>・メディア講座参加者数 6,389人</li> <li>・ながさきファミリープログラム参加者数 896人</li> </ul> <p>「子育て講座」「家庭教育講座」については市内の小・中・義務教育学校に開催を依頼し、68校で実施。PTAの研修会は集合型の研修だけでなく動画配信による研修を行うことで、多くの会員が参加できた。参加人数に関しては、令和4年度以降PTA音楽祭が廃止されたほか、一部講座の受講者数はコロナ禍前まで回復に至っていません。</p>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)社会が複雑に多様化する中、家庭環境も大きく変化し、PTAの目的や必要性が問われています。</li> <li>(2)パソコンやスマートフォンなどの普及に伴い、進化・拡大し続けるメディア利用について、上手な付き合い方を学び、理解を深めてもらうため、今後も各種講座等を実施し、学校や家庭の教育力の向上に取り組んでいく必要があります。</li> <li>(3)R6年度市P連委員会体制を見直されましたがうまく機能しない面が見られました。</li> <li>(4)PTA行事の増により、各会長や校長の負担が増加しているが、事務局・各会長・社会教育課の意識にズレが生じています。(事務局・社教は負担軽減の方向性)</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)PTAという組織が学校や子どもたちのために何を行ない、何を目指し活動するのか保護者に明確に示されていません。</li> <li>(3)委員会の体制が整うまでに時間を要し、途中で行事が追加される等年間計画通りの進行ができませんでした。</li> <li>(4)前年度末及び年度当初に事務局や役員との協議ができていなかったことにより、市P連行事についての意思が統一できていませんでした。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)家庭教育力の向上を目指し、社会全体で子どもたちを育てることが重要であるため、保護者に対してPTAの役割や目的を周知し、子育てに関わりが深いPTAとの連携を強め、PTA活動の活性化に繋がります。</li> <li>(2)メディア安全指導員派遣事業・ながさきファミリープログラムの開催について、各種会合に出向き説明を行ない、推進することで、より効果的な事業展開に努め、家庭教育を支援します。</li> <li>(3)PTA事務局と連携し、負担軽減を目指した委員会体制、PTA行事の見直しを検討します。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア安全講習会やながさきファミリープログラムの開催回数が増え、参加者の増と家庭教育力の向上に繋がります。</li> <li>・委員会体制や行事の見直しを行うことで、保護者がPTAや行事に参加しやすくなります。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	豊かな心を育むまちづくり
-----	--------------

KPI名	健全育成事業への参加者数
------	--------------

KPIの実績値						単位:人	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
13,376	15,447	17,025			18,000		

**KPI算出式** 青少年健全育成事業、徳育推進フォーラムの参加者数+徳育標語コンクール応募者数+補導に  
従事した補導委員の延べ人数

KPI分析
主に、青少年健全育成事業への参加者数は、コロナの5類移行後、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の7割弱にとどまっています。徳育推進フォーラム、補導従事者数は横バイ、徳育標語コンクール応募者は過去最高を記録しました。

施策に対する総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●各中学校区の青少年健全育成会への活動助成、少年の主張大会などの周知・啓発活動を展開していますが、地域の子どもは地域で育てるという住民意識を向上させ、活動を担う次世代の人材育成が求められます。</li> <li>●徳育推進については、佐世保徳育推進会議への支援、同会議と連携した広報啓発活動に行うとともに、関係者へのアンケート結果を踏まえ徳育カレンダーの全戸配布を取り止めるなど、より効果的な広がりを目指して取組の見直しを図っていますが、市民運動としての広がりを見せているとまでは言い難い状況です。</li> </ul>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
徳育推進を市民運動として展開するため、佐世保徳育推進会議と目線を合わせながらより実効的な手法や推進体制等とともに模索します。子育て世代をメインターゲットに、持続的に取組むため、親和性の高い団体や取組等との合同開催により、参加者の負担軽減及び行事の質向上を目指します。	青少年育成連盟、PTA、社会教育フォーラムなどにおける目的を一にする関連行事との統合を検討します。

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	豊かな心を育むまちづくり	KPI	健全育成事業への参加者数
----	--------------	-----	--------------

課名	社会教育課	事務事業名	青少年教育事業
----	-------	-------	---------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)42ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>&lt;青少年健全育成地区活動補助金&gt;            交付実績: 26件(自治協議会・青少年部会等) 2, 100千円            青少年健全育成事業への参加者数 13, 273人            コロナの5類移行後、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の7割弱にとどまっています。</p> <p>&lt;青少年健全育成主催事業の実施&gt;            青少年の健全育成に関する周知・啓発活動を展開することにより、健全育成活動の活発化に繋がりました。また、育成団体との連携や支援を行うことにより、各地域に根差した健全育成活動の推進に寄与しました。</p>	

課題	Check
(1) 地域で健全育成会活動を担う次世代の人材を確保します。 (2) 「地域の子どもは地域で育てる」という住民意識を向上させます。 (3) 参加者の負担感を軽減するために各種事業の精選化を図ります。	

原因	Check
(1) 青少年健全育成会事業に関わる方々の世代交代が十分に進んでいません。 (2) 地域活動の不活性化や家庭の孤立化等に伴い、青少年の健全育成活動に関する地域住民の意識が低下しています。 (3) ここ数年で会議や研修会等の精選化を図りました。今後も関係者との熟議の元、さらなる整理統合をすすめていきます。	

解決策と効果	Action
(1) SNSなどのメディアによる青少年を取り巻く環境の変化に柔軟に対応していく必要があります。 (2) 「佐世保市青少年育成連盟」と連携し、市内全域を対象とした健全育成活動を展開していきます。 (3) 各中学校区の健全育成組織を地区自治協議会に再編合流していく中で、地域における健全育成活動が担保されるよう、団体間の調整を支援します。 (4) 各種メディアとの正しい付き合い方について周知・啓発を図りながら、情報化社会の変化に対応します。	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	豊かな心を育むまちづくり	KPI	健全育成事業への参加者数
----	--------------	-----	--------------

課名	青少年教育センター	事務事業名	青少年非行防止推進事業
----	-----------	-------	-------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)43・44ページ参照
-----------	-------------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補導担当職員や委嘱補導委員の巡回による児童生徒への声掛けを1,614件(未集計)行いました。</li> <li>● 市内16箇所の白ポストにより3,612件の有害図書類の回収を行いました。</li> <li>● コンビニエンスストアや書店等、181店舗への立入調査を実施し、有害玩具及び図書類の区分陳列の確認や依頼を行いました。</li> <li>● 上記の取組を通じて青少年の非行や未然防止に寄与するとともに青少年にとって有害となる環境を浄化しました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委嘱補導委員は定数割れが続いています。また、補導活動を実施しても、子ども自体を見かけないという報告も多くなっています。</li> <li>● 白ポストは、必要性を問う意見もあがってきており、設置主体である県が、白ポスト廃止の方向性も模索している中、老朽化した白ポストの更新や増設は難しい状況です。</li> <li>● 闇バイトに中学生が関わる事件が発生するなど、インターネット(SNS)などを介した、子どもが被害者、あるいは加害者となる事件・事故が増加しています。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委嘱補導委員の後継者が不足しており、高齢化が見られます。</li> <li>● 補導活動を実施しても子ども自体を見かけないという報告が多いということは、子どもが出歩いていないということが考えられます。</li> <li>● 有害図書類回収件数は減少傾向にあることから、図書類が減少したか購入者自身で廃棄されることが増えたと考えられます。</li> <li>● インターネット上の有害情報の氾濫、店頭で販売されている有害図書など、子どもの身近にその健全育成を阻む要因が多数存在しています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状に沿った委嘱補導委員の役割や活動について、地区補導委員連絡協議会との協議、検討を進めるとともに、類似の他団体との役割の整理を行い、子どもが事件・事故に巻き込まれないように、学校・家庭・警察・地域ボランティア・関係機関等と連携して見守っていく体制の構築を検討します。</li> <li>● 有害図書の回収・廃棄やコンビニエンスストア・書店・携帯電話販売店等への立入調査・指導により青少年にとって好ましい環境作りに努めていきます。併せて白ポストは設置主体である県が廃止の方向性も模索している中、老朽化した白ポストの更新や増設は難しい状況であるため、市民の方からのご意見や県の動向を注視し、今後の運用を検討します。</li> <li>● ネットパトロールやメディア安全指導、携帯電話会社等への立入調査などを実施し、青少年がインターネット(SNS)などを介した加害者や被害者となることがないよう、ネット上での見守り活動やメディアとの適切な関わり方等の啓発活動に努めます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	豊かな心を育むまちづくり	KPI	健全育成事業への参加者数
----	--------------	-----	--------------

課名	社会教育課	事務事業名	徳育推進事業
----	-------	-------	--------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)45ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>(1)佐世保徳育推進会議への支援を行なうとともに、同会議と連携した広報啓発活動により、豊かな心を育む機運醸成を図りました。</p> <p>①まちなか徳育標語コンクール… 応募数 1,517人(過去最多)</p> <p>②徳育フォーラムの開催… 参加者 302人</p> <p>(2)取組みの見直し</p> <p>①関係者へのアンケート結果を踏まえ、徳育カレンダーの全戸配布を取り止め、より効果的な広がりを目指して、主要公共施設等への徳育推進ポスター掲示に見直しました。</p> <p>②徳育フォーラムを従来の単独開催から、倫理法人会との共催により実施しました。(徳育について考える機会を提供することで、市民の徳育意識の醸成に寄与しました。)</p>	

課題	Check
<p>(1)徳育が市民運動としての広がりを見せているとまでは言い難いです。</p> <p>(2)事業実施にあたり、佐世保徳育推進会議が担うべき事務局機能を社会教育課が補てんしている状況です。</p>	

原因	Check
<p>(1)子育て世代を含む、若い世代へのアプローチが不足しています。また、徳育推進まちづくり宣言を行った行政として、今後どう展開するのか明確なビジョンが示せていません。</p> <p>(2)佐世保徳育推進会議の主要メンバーの高齢化及び会員が固定化しています。</p>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民の公共倫理・利他の精神・思いやり・奉仕の心、といったものは魅力的なまちづくりに不可欠かつ不変のもので、そこに行政としてスポットをあてることは継続していくべきという認識のもと、行政が徳育を具体的にどう展開するか整理したうえで、佐世保徳育推進会議との目線合わせを要します。</li> <li>●徳育を真の市民運動に展開させるための取組について、随時アンケート等でエビデンスを示しつつ、佐世保徳育推進会議と目線を合わせながらより実効的な手法や推進体制等とともに模索します。併せて、佐世保徳育推進会議の必要性についても令和7年度中に検討します。</li> <li>●子育て世代をメインターゲットとしているものの、繁忙な世代を徳育単独のフォーラム等に呼び込むのは現実的ではない(参加者が頭打ちの状態が続いている)ため、行事を開催するのであれば、社会教育フォーラムの形式など開催形態を見直し、関係団体を巻き込んだ形で実施します。(類似した団体や取組等との合同開催により、参加者の負担軽減及び行事の質向上を目指します)</li> </ul> <p>→徳育の「自己啓発・周知広報」の段階から、「地域社会貢献の実践」が徳育(=地域の未来づくり)につながる、というような、実践主体の取組への移行を目指します。</p> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●徳育の理念が市内に浸透することで、徳育推進のまちづくり宣言にあるような都市の実現に寄与します。(ゴミ拾いをする人が多数いる、日常的にバスで席を譲る人がいる等)</li> <li>●徳育に関連する事業の参加者増に繋がります。</li> </ul>	

## 4 施策3(生涯学習の充実)

### 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	生涯学習の充実
-----	---------

KPI名	生涯学習事業への参加者数
------	--------------

KPIの実績値						単位:人	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
133,504	190,858	206,522			150,000		
KPI算出式		生涯学習推進事業、地区自治協対象事業、英語シャワー事業の参加者数+福井洞窟ミュージアム等文化財関連施設への来訪者数					

KPI分析
英語シャワー事業、まちづくり出前講座や地区自治協主催事業の参加者数、郷土史体験講座などの参加者や文化財関連施設への来訪者は概ね目標を達成し、生涯学習事業への参加者数は目標を超えています。特に、まちづくり出前講座の受講者数、地区自治協議会開催事業への参加者、英語関連事業の実践人数において、コロナ5類移行後大きく回復を見せています。

施策に対する総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6年10月の福井洞窟の「特別史跡」の指定は、これまで積み上げてきた取組みが実を結びました。</li> <li>●「文化財保護、活用」については、福井洞窟が国の特別史跡の指定を受けたことで、これを契機とし、文化財を活用した生涯教育に関する意識の醸成や、市外から人を呼び込むリソースとしての活用を充実させる必要があります。</li> </ul>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語シャワー事業は、市長レビューで指示のあった「グローバル教育の推進」の取組みについてPTで整理を進めます。</li> <li>●まちづくり促進事業補助金など一部の事業については縮小廃止を視野に入れ、関係団体とも協議しながらあり方を検討していきます。</li> <li>●文化財の保護活用については、適切な保存、継承を行うとともに、文化財の魅力向上や地域の歴史や郷土についての普及・啓発を図り、生涯学習の参加につなげていきます。</li> <li>●福井洞窟の特別史跡指定記念事業を実施するとともに、針尾無線塔、させぼ立神近代化歴史公園などについては、周遊の仕掛け等を行う観光的な側面と連携を行っていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●二つのフィールドミュージアムを核とした佐世保の多様な文化財の保存と活用</li> <li>①洞窟遺跡群を基軸としたフィールドミュージアム・洞窟遺跡日本一のまち佐世保(洞窟王国させぼ)福井洞窟を中心に泉福寺洞窟、岩下洞穴他への周遊</li> <li>②日本遺産「鎮守府・佐世保」を基軸としたフィールドミュージアム</li> <li>●「させぼ立神近代化歴史公園」をコアエリアとし、俵ヶ浦地区や針尾地区などのサテライトエリアへの周遊に向けた関係部局との調整を行います。</li> </ul>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	社会教育課	事務事業名	生涯学習推進事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)48ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
生涯学習関連情報や学習機会の提供充実を図るため、関係職員等の研修、また、まちづくり出前講座やボランティア講師派遣等を行いました。	
(1)職員研修 職員のスキルアップ、県内外の自治体の情報収集や担当職員との情報交換を行いました。	
(2)「家読(うちどく)講演会」の実施 参加者45人 保護者等を対象とした講演会(R6は県共催で開催)を実施しました。	
(3)まちづくり出前講座(希望団体に講師派遣・実績251件) 参加者延べ8,762人	
(4)生涯学習ボランティア講師派遣(実績45件) 参加者延べ1,796人	
(5)第四次子ども読書プランを策定しました。	

課題	Check
(1)不読率が増加する中、子ども読書活動の推進に注力できていません。	
(2)学校図書ボランティアネットワークさせぼの活動の存続が難しい状況です。	
(3)読書好きの子どもを育む核となる親世代に読書の重要性が浸透していません。	

原因	Check
(1)読書活動を推進する関係機関(学校、幼保、図書館、コミセンなど)の目線合わせが不十分です。	
(2)読書ボランティア活動の内容や魅力が認知されていません。	
(3)読書に関心の薄い若い親世代の意識を向上させる手だてが不足しています。	

解決策と効果	Action
<b>【解決策】</b>	
(1)eduポータル等を活用して保護者・子どもへのアンケートを実施し、読書離れの要因等を研究します。結果分析をもとに、家読講演会の開催形態(時期や集客対象・周知方法等)の見直しや、PTA研修会などに合わせて読書啓発を行うなど、読書に関心の薄い若い親世代の意識を向上と活動の推進力強化を図ります。 令和7年度の家読講演会は初の夏休み開催を検討しています。PTA等子育て世帯や各地区読書ボランティアへその周知とあわせてアンケート依頼し、その集計分析を次年度に反映させます。	
(2)各コミセン等で活動されている読書ボランティア団体を把握し、活動情報を集約して周知紹介します。あわせて、取組への参画母体の拡大を図ります。	
(3)PTA研修会などのイベントに合わせて直接読書の啓発を行います。また、行事参加者以外にもSNSなどで広く周知し、まずは自身の興味・関心を引きだして、家庭における読書活動の必要性についての意識向上を図ります。	
<b>【効果】</b>	
(1)家読講演会の質が向上し、読書推進の実効力も向上します。子ども読書プランのブラッシュアップに繋がります。	
(2)各団体のモチベーションを向上させ取組みが活性化します。家読講演会への参画母体を拡大させます。	
(3)親の読書意識が向上することで、家庭における子どもの読書環境も向上し、本への興味・関心が高まります。	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	社会教育課	事務事業名	生涯学習支援事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)49ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>(1)まちづくり促進事業補助金を町内会・自治組織等に交付しました。 交付実績：386件、6,782千円</p> <p>(2)生涯学習推進補助金を市内全地区自治協議会に交付しました。 交付実績：27件、13,500千円(500千円×27地区)</p> <p>コロナ禍で一定の制限を受けつつも、各地域では、開催規模や開催形態を工夫し、イベント等の実施を継続しています。町内会などの地域運営組織に対する補助に関しては、今後も市民生活部と連携しながら、より効果的な補助のあり方を検討していきます。</p>	

課題	Check
<p>(1)補助の目的が他の補助金(敬老会、防犯灯、市道草刈りなど)と類似している点や、コミュニティ行事の維持(運営経費補てん)の色合いが強い側面が見られます。</p> <p>(2)地区自治協によるフレキシブルで主体的な地域運営を促進する観点から地域コミュニティ補助金が交付金化されるなど、今後も段階的にコミュニティ協働・推進課の「地域予算制度」が進められます。これとあわせて、地域運営組織にとって活用しやすく、簡素かつ効果的な補助制度となるよう、一体的な見直しが必要です。</p>	

原因	Check
<p>(1)長年にわたって制度の見直しが図られておらず、また町内会向けの少額の事業費補助金であるため、活用のしやすさや、実質的效果の面で疑義が生じており、見直しの必要性が生じています。</p>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 地区自治協や町内会などの地域運営組織にとって活用しやすく、簡素かつ効果的な補助制度となるよう、地域予算制度の所管であるコミュニティ協働推進課・財政課と協議しながら、検討を進めます。</p> <p><b>【効果】</b> 町内会、地区自治協、社会教育課の事務負担軽減 地域における自主的な生涯学習活動の推進</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	社会教育課	事務事業名	英語シャワー事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)50ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>国際色豊かな佐世保市ならではの特長である外国文化や人材を活用し、官民協働の手法を用いながら英語が身につく環境づくり、グローバル人材の育成を図りました。SASEBO EXPOをはじめとして、参加者数は順調に伸びてきています。</p> <p>①SASEBO EXPO(文化を介して交流する体験イベント)参加者 672人            ②グローバルキッズチャレンジ(言語学習や体験活動、計8回)参加者延べ 144人            ③ENGLISH出前プログラム(学習グループへの講師派遣、実績6回)参加者延べ 115人            ④ENGLISHステーション(コミセン主催講座への講師派遣、実績16回)参加者延べ 223人            ⑤サセボEチャンネル(Web・SNS)フォロワー数 2, 837人(R7.3時点)</p>	

課題	Check
<p>(1)既存事業は好評であるものの、業務負担が大きく、目的と事業の在り方の整理が必要な時期に来ています。</p> <p>(2)現在の英語シャワー事業は生涯学習施策なので、対象範囲を子どもと絞ると大人の学習機会が担保できなくなります。</p>	

原因	Check
<p>(1)「英語が話せるまち」の理念に賛同いただいた市民の方々から構成される各グループに平成29年度から委託し官民協働で実施しているものの、現在の市の方針転換(英語が話せるまち→グローバル教育の推進)に沿った整理が曖昧なまま事業を実施しているためです。</p> <p>(2)対象を市民全体と幅広く設定しているものの、事業毎の明確なターゲットが曖昧であるため(子ども、大人、日本人、外国人)、参画者の顔ぶれに広がり生まれません。</p>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b>            (1)グローバル教育の定義及び今後の展開(既存事業の整理確認・新規事業の検討など)を、令和7年度中にPT内で協議したうえで、社会教育課が所管する事業において、グローバル教育の推進のためにどこまでの役割を担うのか整理を行います。(施策3「生涯学習の充実」のKPI向上に資する取組の再整理という視点が必要です。)            (2)社会教育課の有するネットワークのみならず、PT内の関連部局や庁内の各部局が有するネットワークを活用した広報周知を実施します。</p> <p><b>【効果】</b>            ●各部局が明確な役割を持ってグローバル教育の推進に取り組むことができるため、これまで以上に英語学習に対する動機付けや国際交流への興味等を喚起させることにつながります。            ●各種事業への参加者数増加、英語検定等の資格取得率、または受験者数の増加、学力向上などにつながります。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	文化財課	事務事業名	文化財の調査・保護・活用事業
----	------	-------	----------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)51ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化財の普及啓発事業である「郷土史体験講座」は、「洞窟壁画体験」や「平戸八景めぐり」などの講座を年間7回開催し、延べ194人の参加があり、目標を達成しました。</li> <li>●立神広場整備活用事業は、土壌汚染対策を取りつつガイダンス施設や公園等の工事に着工することができました。</li> <li>●うつわ歴史館への来館者は延べ3,305人、無窮洞の見学者は14,958人であり、合計で昨年と比較して約14%減少しました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化財の保護活用において、人々の生活や風土との関わりにおいて生み出され、現在まで守り伝えられたきた地域の貴重な文化財が失われつつあります。</li> <li>●文化財として取り扱われる範囲が広がっており、保護対象となる文化財が増加しているほか、民間開発に伴う埋蔵文化財の調査件数も増加するなど業務が拡大しており、業務の見直しや人員の確保等の課題があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●急激な少子高齢化・過疎化などの社会変化により、若年層を中心に文化財保護に関する地域の担い手が不足しています。</li> <li>●近代化遺産など文化財として取り扱われる範囲が広がっています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●若年層が参加し易い郷土史体験講座の開催や「PRキャラクター」の募集など、子どもたちが文化財に興味関心を持てるような取組の実施を検討し、地域の文化財を適切に継承する為に必要な手だてを講じていきます。(福井洞窟等の「PRキャラクター募集」は、令和6年度から実施、令和7年度選定及び表彰)</li> <li>●「佐世保市文化財保存活用地域計画」の策定により、本市文化財の全体的な状況を把握し計画的な事業の実施し事務の平準化を図ります(令和7年度策定、令和8年度文化庁提出)</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●若年層の文化財に対する興味関心を高め、文化財保護意識の向上を図り、次世代へ継承していくことで、郷土に対する誇りと愛着心を育ててまいります。</li> <li>●計画的な事業の実施により業務の効率的な推進が可能となります。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	文化財課	事務事業名	世界遺産保存整備事業
----	------	-------	------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)52ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●黒島の文化的景観の修景整備を目的とした補助事業において、2件を採択し補助金を交付しました。</li> <li>●世界遺産の構成資産「黒島の集落」のシンボルである黒島天主堂への令和6年度の訪問者は、3,396人であり昨年度よりわずかに減少しています。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「黒島の集落」の世界遺産としての価値の保全と効果的な活用のバランスが課題です。</li> <li>●世界遺産登録に伴う観光客の増加は地域活性化に繋がる要素である一方、環境の悪化や住民との摩擦も懸念されます。</li> </ul>	

原因	Check
<p>平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録され、文化的景観、黒島天主堂を保存活用するため、各種調査や作業に取り組んでいますが、まだ十分な成果が得られていません。</p>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 世界遺産としての価値を保全しつつ効果的に活用していくため、これまで取り組んできた黒島の文化的景観に関する調査や修景事業に関する補助事業等の継続、黒島の世界遺産としての周知啓発を実施していきます。</p> <p><b>【効果】</b> 保全と活用のバランスをとりながら地域の活性化を図ることで、世界遺産としての価値を広く市民に理解いただき保護意識の醸成につながります。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	文化財課	事務事業名	福井洞窟整備・発掘事業
----	------	-------	-------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)53ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6年10月に旧石器時代としては初めて国の特別史跡に指定されました。</li> <li>●「福井洞窟」の現地への令和6年度の来訪者は7,057人で、特別史跡に指定されたこともあり前年度より増加しています。</li> <li>●令和5年度末に「福井洞窟保存活用計画」を策定し、同計画をもとに事業を推進しています。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●福井洞窟が特別史跡に指定されたため、その価値や意義について広く一般に周知啓発することが課題です。</li> <li>●過去に福井洞窟から出土した資料のうち、市外に分散保管されている資料について、移管及び長期借用し本市への集約するという課題があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別史跡に指定されましたが、その価値や意義について十分に理解されていません。</li> <li>●過去に福井洞窟の発掘調査を実施した大学等が、調査研究のため出土品をそれぞれ保管しています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●特別史跡指定記念事業を令和7年度に実施することで、広く市内外に福井洞窟をはじめ市内の洞窟遺跡の周知啓発を図ります。</li> <li>●過去の出土資料を保管している大学等との連携を継続し、移管や借用に向けた取組を実施します。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <p>福井洞窟の特別史跡指定を契機として、市内に多数ある洞窟遺跡を活かしたフィールドミュージアムにより「洞窟遺跡日本一」を広く一般にアピールできます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	文化財課	事務事業名	針尾送信所保存整備事業
----	------	-------	-------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)54ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●針尾送信所の維持管理や見学環境の向上を図ることで、本市の文化振興や地域振興に貢献することができました。</li> <li>●令和6年度の針尾送信所の来訪者数は38,388人で、特別公開を行った前年度と比べ減少しています。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28年度に鎮守府のストーリーが日本遺産に認定され、針尾送信所等の近代化遺産に注目が集まっており、一定数の見学者もいるため、良好な見学環境の維持整備という課題があります。</li> <li>●令和6年度に実施した来場者アンケート結果において、WEBでの周知不足という課題があげられています。</li> <li>●現在行っている保存調査の結果により、今後の施設整備の計画を検討していくという課題があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●見学者の増加に伴う見学環境の対応が不足しています。</li> <li>●針尾送信所の単独ホームページが無いなどWEBでの情報発信が十分にできていません。(※令和8年度まで、保存修理工事に関する調査を実施する予定です。)</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●来訪者へのガイドや環境整備に対する業務を、地元の住民で組織された団体へ継続して委託することで、見学環境の整備を図って行きます。</li> <li>●令和7年度に針尾送信所の情報を伝える専用のホームページの開設を予定しています。</li> <li>●調査結果に基づいた修理計画及び展示計画を令和8年度以降に策定します。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <p>針尾送信所を通じて本市の近代化遺産に対する理解を深めてもらい、文化財を良好に保存・活用し次世代に継承することができます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習事業への参加者数
----	---------	-----	--------------

課名	文化財課	事務事業名	文化財施設展示等管理運営事業
----	------	-------	----------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)55ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●福井洞窟ミュージアムは、「空から見た洞窟遺跡」と題した企画展や講座及びワークショップを開催し、令和6年度は、15,581人の来館者を迎えることができ、福井洞窟が特別史跡に指定されたこともあり前年度よりも増加しています。また、令和6年5月には来館者5万人を達成いたしました。</p> <p>●世知原地区炭鉱資料館へは、1,113人、宇久島資料館へは、115人が来訪されました。合計で前年度と比較すると約17%増加しました。</p>	

課題	Check
本市文化財行政並びに本市公共施設の再編を推進するうえで、分散した展示収蔵施設を集約した施設の適正配置という課題があります。	

原因	Check
市町村合併により旧町で展示収蔵していた施設が点在し、その多くは老朽化しています。	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】 老朽化がみられる展示施設は、各館の近隣にある本市施設への複合化を含め、資料の展示、収蔵、管理の在り方を令和7年度以降検討してまいります。</p> <p>【効果】 複合化や集約を行うことで、見学環境の向上と文化財の管理等についての効率化が図られます。</p>	

# 点検・評価シート【施策】/令和6年度

施策名	生涯学習の充実
-----	---------

KPI名	生涯学習拠点施設の利用者数
------	---------------

KPIの実績値						単位:人	
現状値 令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
					目標値	実績値	
1,047,685	1,235,297	1,205,044			1,269,000		
KPI算出式		コミュニティセンター、少年科学館、図書館、総合教育センターの利用者数					

KPI分析
<p>●いずれの生涯学習拠点施設の利用者数も、コロナ5類移行後は回復傾向にあり、コロナ禍前の水準まであと少しの状況ですが、コミュニティセンターの利用者数は令和6年度から横バイ(頭打ち)の状況が見られます。</p> <p>●対前年では市立図書館の利用者数は大きく伸びています。</p>

施策に対する総合評価
<p>KPI達成度自体はおおむね順調です。</p> <p>●地域に根差したコミュニティセンターの利用向上を図るため、情報コンテンツ「ぼすこみ」による周知広報、コミセン主催講座を行いました。コミュニティセンター利用者数はコロナ5類移行後は回復傾向にありましたが、6年度以降横バイ(頭打ち)の状況が見られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学習意欲は高い中で、コミュニティセンターの社会教育機能の維持・強化が求められます。</li> <li>・生涯学習コンテンツ「ぼすこみ」の利活用が進んでいません。</li> </ul> <p>●総合教育センターでは、安全安心な利用環境の維持に課題があります。(施設設備更新計画の必要性の高まり)</p> <p>●少年科学館では、科学教室参加人数、プラネタリウムや天体観測へのリピーターが減少しています。</p>

政策実現に向けた取組	
令和7年度から実施(実施検討含む)	令和8年度以降実施・実施検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区コミュニティセンターの社会教育機能充実のための支援体制(相互支援ネットワーク、WEB研修環境の整備等)を構築します。</li> <li>・少年科学館による官民協働のハッカソン・アイデアソン等のイベントを開催し、プラネタリウム・天体観測室での新規来館者及びリピーターの増につなげます。</li> <li>・3館(少年科学館、教育センター、清水地区コミュニティセンター)の連携による学習機会創出を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターの利用活性化による地域生涯学習の拠点機能の強化について検討します。</li> <li>・ふるさと教育によりシビックプライドを醸成し、交流人口の増、シティブランディングにつながる事業を推進します。</li> </ul>

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習拠点施設の利用者数
----	---------	-----	---------------

課名	総合教育センター課	事務事業名	総合教育センター事業
----	-----------	-------	------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)56ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
佐世保市総合教育センターの施設維持管理を行うとともに、センター内にある3施設(教育センター、少年科学館、清水地区コミュニティセンター)の連携による学社融合の取組を行いました。	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●KPIは概ね達成できていますが、総合教育センター利用者目標値(3館の施設利用者総数)に到達していないという課題があります。</li> <li>※令和6年度施設利用者(実績)99,803人/目標値124,000人=達成率:80.5%</li> <li>●事業実施にあたっては、施設利用者の安全安心な利用環境の維持に課題があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●KPI向上の課題については、KPI(利用者目標値)の40%を占める、少年科学館の利用者数が目標値50,000に対し43,681人と達成率87.4%となっており、概ね達成できているものの、前年度との比較において、約3,000人の減(93%)となっています。その主な要因は、児童生徒の科学教室参加人数の減にあわせ、プラネタリウムや天体観測へのリピーターの減と考えています。</li> <li>●総合教育センター敷地南側の法面(傾斜地花壇)について、経年劣化による崩落の危険性があり、施設利用者の安全安心な施設利用環境に対するリスクが存在しています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和7年度からの新たな取組として事業展開する官民協働の「少年科学館ふるさと未来事業」において、企業が持つ強みと科学館が持つ施設や子どもたちの指導等の強みを合わせながら、子どもたちの探究心と課題解決能力を育むことを目的に、ハッカソンやアイデアソンを開催し、KPIの向上を図ります。</li> <li>●プラネタリウムにおいては、子どもだけでなく幅広い層が楽しめる番組を導入し、天体観測室についても、太陽観望会や天体観望会の開催回数を増やししながら、来館者やリピーターの増加につなげていきます。</li> <li>●令和7年度において、総合教育センター敷地南側の法面整備工事を実施します。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <p>総合教育センター利用者の増加が図れるとともに、施設利用者の安全安心な施設利用環境が維持されます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習拠点施設の利用者数
----	---------	-----	---------------

課名	少年科学館	事務事業名	少年科学館事業
----	-------	-------	---------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)57ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●プラネタリウム番組投映、天体観望会の開催、科学教室・科学行事等を開催しました。</li> <li>●ふるさと教育事業を立ち上げ、理科学習支援事業と関連付けるとともに、イベントや工場見学およびプラネタリウム無料券を配付するなどの新たな取組を実施しました。工場見学のアンケートでは、参加した児童生徒及び保護者の80%以上が意欲的な活動ができており、地元企業への関心も高まったと答えています。</li> </ul>	

課題	Check
少年科学館の利用者数の目標値を50,000人としていますが、6年度実績は45,726人、達成率91.5%となっています。目標は概ね達成できているものの、前年度との比較において、約1,271人の減(97.3%)となっています。	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者数減の主な要因は、児童生徒の科学教室参加人数の減にあわせ、プラネタリウムイベントに対する参加者数の減です。</li> <li>●展示物において、体験型の展示物が不足しており、展示スペースへのリピーターが減少したものです。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<b>【解決策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和7年度から企業が持つ強みと科学館が持つ施設や子どもたちの指導等の強みを合わせた「少年科学館ふるさと未来事業」を立ち上げます。この事業では、プログラム作成やふるさとの課題に関するハッカソンやアイデアソンを行うことで、これまでの来館者にはない層に新たな参加者層が期待でき、KPIの改善を図ります。</li> <li>●プラネタリウムにおいては、子どもだけでなく幅広い層が楽しめる番組を導入し、天体観測室についても、太陽観望会や天体観望会の開催回数を増やしなが、来館者やリピーターの増加につなげていきます。</li> <li>●展示スペースにおいては、体験型のものを準備し、展示スペースにおける興味関心を高めます。</li> </ul>	
<b>【効果】</b> 科学館利用者の増加が図れるとともに、それらをきっかけとして科学館に興味・関心をもったリピーターの増加が期待されます。	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	生涯学習の充実	KPI	生涯学習拠点施設の利用者数
課名	社会教育課	事務事業名	コミュニティセンター活性化事業
事業内容・事業目的		教育振興基本計画(第4期)58ページ参照	

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●地域住民への充実した学習機会の提供を行うことで、地域に根差したコミュニティセンター(コミセン)活動を展開し、利用向上を図るため、情報コンテンツ「ぽすこみ」による周知広報、コミセン主催講座を行いました。</p> <p>●コミセンの利用者数はコロナ5類移行の後は回復傾向にありましたが、6年度以降横バイ(頭打ち)の状況が見られました。</p> <p>(1)コミセン主催講座 R6実績 講座数:177 開催回数:729回 のべ受講者数:16,904人</p> <p>(2)コミセン職員研修 社会教育課主催の研修を2回実施し、九州大学での社会教育主事講習の受講をはじめとする、外部研修(県外、県内)へ職員を派遣 ※コミセン28館へ25人の社会教育有資格者配置</p> <p>①九州大学社会教育主事講習:2名(資格付与1名、一部科目:1名)</p> <p>②国社研社会教育主事講習:4名(資格付与:3名、一部科目:1名)</p> <p>③県教育庁生涯学習課や各協議会が主催する研修会・研究大会 合計4回(8人)参加</p>	

課題	Check
<p>(1)市民の学習意欲は高い中で、コミセンの社会教育機能の維持・強化</p> <p>(2)「生涯学習」の取組趣旨を浸透させ、幅広く市民の自己実現の支援や、地域課題解決への活用につなげるための情報発信強化(生涯学習コンテンツ「ぽすこみ」の利活用が進んでいない)</p>	

原因	Check
<p>(1)コミセン体制が十分ではない(特に旧市内の2人館)、コミセンの役割が明確でない</p> <p>(2)ぽすこみ活用のためのスキルがコミセン職員に浸透していない(負担感がある)</p>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <p>(1)コミセン支援体制の検討(相互支援ネットワーク、WEB研修環境の整備等)</p> <p>(2)ぽすこみ投稿コンテンツのベースとなる定型フォームの検討・作成</p> <p>【効果】</p> <p>(1)(2)コミセン職員の負担軽減により、コミセン主催講座の質の向上、コミセンの生涯学習環境の改善、コミセン間の相互交流や、取組の相互支援等のネットワーク構築を図ります。</p>	

## 5 政策を支える包括的な事務事業

### 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	教育総務部総務課	事務事業名	私立学校助成事業
----	----------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)59ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
市内5つの学校法人に対して、均等割、生徒数割及び事業費割に応じた補助金額を算出し、助成を行いました。	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業開始から長期間経過しており、事業の内容やニーズ等に対応できているか確認が必要です。</li> <li>●各学校法人の事業費に対して補助額の割合が低く、効果的な支援内容等についても研究が必要です。</li> </ul>	

原因	Check
昭和30年に助成制度を開始してから約70年が経過していますが、一度も見直しがなされていないためです。	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 事業の内容が現在の社会状況にマッチしているのかを確認するため、各学校法人へのニーズ調査を実施し、各学校法人が求めている支援内容の把握に努めました。意見交換をするなかで、これまでの施設整備等に対する助成ではなく、ソフト面への支援へ見直す必要があると判断したことから、令和6年度で本事業を終了し、新たな支援制度を構築します。</p> <p><b>【見直しと効果】</b> 本事業終了後は、施設整備等に対する助成ではなく、佐世保市のスクールソーシャルワーカーが市立小・中学校時代に支援してきた生徒・家庭に対して、佐世保市教育委員会と私立学校がこれまで以上に連携を図り、私立学校進学後も同じ佐世保市のスクールソーシャルワーカーが継続して関わった方がよいと判断されたケースについて、支援を行うこととします。これにより、不登校生徒や本人が望まない退学の減少に寄与できるものと考えます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	教育総務部総務課	事務事業名	奨学金充実事業
----	----------	-------	---------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)60ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●月額2万円のみであった大学生等への奨学金について、令和6年度から「月額3万円・4万円」を追加し、月額2万円、3万円、4万円からの選択制に見直したところ、申込者4名全員が4万円を選択されたことで奨学生のニーズに応えることができました。</li> <li>●広報誌への掲載や、ラジオ番組への出演を行うなど制度周知に努めました。</li> </ul>	

課題	Check
佐世保市奨学金の新規貸付者数が減少傾向であるため、制度の有効活用についてさらに研究を進める必要があります。	

原因	Check
長崎県育英会や日本学生支援機構などの奨学金と比べると貸付額が低額であるため、奨学生のニーズに対応できていないことが考えられます。	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 令和7年度から、佐世保市奨学金のうち、高等学校等の貸付金額を現在の公立学校月額1万2千円、私立学校月額2万円から、公立学校・私立学校問わず、月額2万円、3万円、4万円からの選択制に見直し、基金の更なる活用と、市民のニーズに対応することで、本市の奨学金制度を利用しやすくします。</p> <p><b>【効果】</b> 成績優秀であるにもかかわらず、経済的理由により就学困難な者の就学の援助をすることで、教育の機会均等と有為な人材の育成を図ることに寄与することができます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	学校教育課	事務事業名	幼児ことばの教室運営事業
----	-------	-------	--------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)61ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●通級生47名に対して指導を行いました。主な種別は構音障がい、吃音でした。</li> <li>●教育相談はのべ494件を実施しました。相談内容は構音障がい393件、吃音74件、言語発達遅滞5件、その他22件でした。</li> <li>●通級指導児童が年々増加傾向(前年度より9名増)にありますが、対応することができました。</li> <li>●教育相談から通級教室へのとつなぐことができ、指導を行うことができました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ことばの課題について保護者の理解がさらに深まったことから、幼児の発音の改善や吃音の理解等へニーズが高まっています。(令和5年度教育相談件数531件)(令和6年度教育相談件数494件)</li> <li>●幼児期からの切れ目ない指導・支援の充実に向けて、小学校の難聴・言語障害通級教室との連携を充実する必要があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係機関と連携し周知を行った結果、幼児ことばの教室を広く知っていただくことができています。</li> <li>●ことばの課題について、保護者の理解がさらに深まったことにより通級教室、教育相談の利用につながっています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●幼児への指導・支援の充実に加え、指導技術の向上や症例の理解等について、小学校の難聴・言語障害通級指導教室と相互研修を実施し、幼児や保護者のニーズへの対応を一層充実させます。</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育相談の充実、ことばの指導の向上することにより、早期の対応・改善を図ります。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	教育総務部総務課・教育施設課	事務事業名	小学校管理運営事業・中学校管理運営事業
----	----------------	-------	---------------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)62ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐世保市立小・中学校及び義務教育学校の運営に必要な経費や学校のICT環境の整備・維持管理に必要な経費について確実な予算執行を行いました。</li> <li>●学校施設の適切な維持管理のための各種点検業務を行い、さらに市内8校において屋内運動場(体育館)の施錠・開錠を鍵を使わずに暗証番号で行う「スマートロック」の実証実験を行いました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校での多様な課題や環境変化に対応するため、各種の経費を要しています。</li> <li>●児童数の動向等に左右されますが、効率的な予算執行を念頭に、質を維持しつつ、コスト縮減に努め、安定的かつ効果的な学校運営を引き続き図っていく必要があります。</li> <li>●小中学校体育館等の学校施設利用予約は、施設利用の希望者が学校窓口での申請することが必要であり、それにより都度発生する学校側の事務負担も大きくなる状況にあります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在の学校運営はGIGAスクール構想による児童生徒1人1台パソコンの導入により、経費が増加しています。児童生徒数が減少していますが、特別支援学級数は減少していないため、学校運営費全体における経費は減少していない現状があります。</li> <li>●市場による影響を受けやすい燃料費等をはじめとし、1校当たりにより要する各種管理経費が増加傾向にあります。</li> <li>●施設の空き状況について電話や窓口での確認が必須で、加えて施設利用の申請手続きについて紙媒体で行う必要があります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●R7.8末にコピーパフォーマンス料の契約が終了するため、今まで、印刷機、コピー機、プリンターで行っていた印刷を高速複合機を導入することで、学校における印刷に係るコストと時間を削減し、ペーパーレス化の推進を図っていきます。</li> <li>●デジタル教科書と指導書がセット販売になっているものについては、セット販売が安価となるため、令和6年度に方針を整え、セット販売のデジタル教科書を導入する教科を拡充しました。</li> <li>●野外宿泊学習奨励については、令和6年度まで中学校の野外宿泊活動におけるバスを公費で借り上げていましたが、コロナ禍を契機に中学校においても小学校と同じ1泊2日の実施に変わってきており、小学校では保護者負担となっていることから、小中学校間の公平性を保つため、令和7年度から事業の廃止を行います。</li> <li>●スマートフォン等での施設予約申請が可能スマートロックシステムを令和8年度に導入することに向け実証実験を行いました。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営にかかる経費の縮減ができ、さらに、印刷や施設利用申請の処理にかかる時間を削減することで学校における働き方改革の推進に寄与することができます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	教育施設課	事務事業名	小学校施設維持改修事業・中学校施設維持改修事業
----	-------	-------	-------------------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)63ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●小規模修繕業務対応【学校対応】(小学校:422件、中学校:253件)</li> <li>●小規模修繕業務対応【教育委員会対応】(小学校:60件、中学校:23件)</li> <li>●小規模改修工事対応(小学校:181件、中学校:95件)</li> <li>●屋外非常階段改修工事(日宇小学校、港小学校、江上小学校)</li> <li>●フェンス改修工事(相浦西小学校、祇園中学校、宇久中学校)</li> <li>●小荷物昇降機改修工事(相浦小学校)</li> <li>●埋設ガス管耐震化改修工事(黒髪小学校)</li> <li>●消防用設備〈消火ポンプ取替〉改修工事(江迎小学校)</li> <li>●浄化槽処理水配管改修工事(浅子小中学校)</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在、学校教育に求められる機能や役割が多様化・複雑化している中で、学校施設や設備について、適時、維持改修(優先度評価に基づく修繕・小規模な補修や改修工事)を柔軟に行う必要があります。</li> <li>●小規模な修繕や補修工事が必要とされる状況になった際に、都度対応するような事後的な対策を講じざるを得ない現況にあります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●校長会、PTAなどからの要望に基づき小規模な修繕や改修等を進めているものの、築年数が40年以上経過している校舎が増加しており、限られた財源内で全ての要望に対応することは難しく、一斉改修などの対応を実施することが困難な状況にあります。</li> <li>●学校施設の老朽化に伴う修繕や小規模改修に加え、質的向上につながる改修の要望や、インクルーシブな施設について検討を求めるなど、要望や意見の内容が多様化しています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設の健全化のため、老朽化対策・防災機能の強化対策を優先度や施設状況等から計画的に、また、柔軟さをもって対応を進めることにより、コストの平準化、安全・安心な教育環境の確保を実施していきます。</li> <li>●現場の声を参考に求められる機動的な対応を図りながら、加えて各学校への修繕料の予算配当により、ガラス破損や鍵交換などの小規模修繕について学校判断での迅速な対応が引き続き行えるようにいたします。</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市立学校の施設や設備について、雨漏り補修や施設設備などの小規模な維持改修を迅速かつ適切に行うことにより、安全・安心な教育環境が確保でき、教育の充実に寄与しています。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	教育総務部総務課	事務事業名	小学校児童・中学校生徒助成事業
----	----------	-------	-----------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)64ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者の教育負担の軽減を図るため、全児童生徒のうち令和6年度においては3,668人を認定し、就学援助費の支給を行い、保護者の経済的負担軽減に努めました。(小学校:認定者数 2,396人、認定率19.83% 中学校:認定者数 1,272人、認定率19.70%)</li> <li>●通学距離が遠距離である者に対して、310人の児童生徒の保護者に対し、遠距離通学費補助金の支給を行い、保護者の経済的負担軽減に努めました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者の教育負担の軽減を図るため、今後も就学援助費による継続した支援が必要ですが、全家庭へ希望の有無を確認することで制度の周知徹底は図られているものの認定率が増加している現状に鑑みて、必要な支援が確実に行き渡ることが課題となっています。</li> <li>●遠距離通学児童生徒通学費補助金の通学距離及び補助金額については、今後、学校再編と併せて検討する必要があります。</li> <li>●徒歩通学における補助金額の根拠を自家用車送迎の実態と照らし合わせ、検討する必要があります。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●就学援助については、今までは全家庭へ希望の有無の確認を行っており、認定率も一定横ばい状態で推移していました。しかしながら、R6年度申請からオンライン申請を始め、学校に知られることなく申請できるなど、保護者の心理的負担が軽減され、申請者が増加しています。これに伴い、認定者数も増えている現状があり、必要な支援が行き渡っていない可能性が考えられます。</li> <li>●学校再編が進むと通学区域が拡大する地域及び対象者が増えることが見込まれるため、学校再編により安全な通学路が整備されるまでは、一定の支援が必要となります。</li> <li>●遠距離通学費補助金については、申請の際、通学手段を公共交通機関か徒歩を選択するようになっており、保護者による自家用車での送迎の実態を把握できていません。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●就学援助については、経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者の方に確実に周知が行き渡るよう、本市においては、希望の有無の全確認を徹底してきました。さらに、令和6年度からはオンライン申請の導入により申請数が増えた結果を踏まえ、保護者の方の心理的負担が減ったと考えます。今後もオンライン申請の推進により、申請しやすい状況を構築していき、経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者へ確実に援助が行き渡るよう、オンライン申請の推進を図っていきます。</li> <li>●R7年度からは私立学校へ対象者を拡充します。また、R7.4開級する夜間学級の生徒本人に対する支援も行うことで、誰一人取り残さない教育の実現に向け、制度の整備を行っていきます。</li> <li>●遠距離通学費補助金については、令和7年度において、実態を把握するために、各学校、中核市、長崎県内の状況などを調査し、現状分析を行います。そのうえで、自家用車による送迎の実態が把握できれば、ガソリン代での補助など、補助金額の根拠について、令和8年度予算編成に向け、準備を進めていきます。</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●就学援助については、経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒の保護者の方が申請しやすい環境を整えることができ、必要な支援が行き渡るようになります。</li> <li>●遠距離通学者補助金については、実態に合わせた補助金を交付することができるようになります。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	社会教育課	事務事業名	人権講座事業
----	-------	-------	--------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)65ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育集会所やコミュニティセンターで、人権・同和教育啓発講座を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育集会所(講演会10/25) 受講者数 46人</li> <li>・コミセン主催講座 29講座 延べ受講者数 734人</li> </ul> </li> <li>●コミュニティセンターや教育集会所など、多くの人が集う場所で、人権・同和教育の学習活動を実施したことで、差別意識の解消や人権尊重意識の向上に寄与しました。</li> </ul>	

課題	Check
<p>(1)教育集会所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化、設備の経年劣化により、雨漏りや主要設備の修理が必要となっており、多額の修繕費に係る予算確保が必要です。</li> </ul> <p>(2)教育集会所、地域に根差したコミュニティセンターで人権に関する講座を開催するなど、行政側からの啓発活動の推進を継続していく必要があります。</p>	

原因	Check
<p>(1)部分的な修理は行っているものの、昭和55年設置以降長年の経年劣化、老朽化が進んでおり、天井部分の雨漏り状況の悪化や、エアコン等の主要設備の故障が発生しています。</p>	

解決策と効果	Action
<p>【解決策】</p> <p>(1)部分修繕による機能維持に努めるとともに、大規模改修に向けた部位別改修調査を進めます。それに先立ち、他市事例の調査や人権男女共同参画課などと協議しながら、教育集会所施設管理のあり方や、施設の位置づけの整理を図ります。</p> <p>(2)市長部局や学校教育と連携を図り、人権教育の充実を図ります。</p> <p>【効果】</p> <p>教育集会所の位置づけを整理するとともに、適切な施設管理を行います。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	—
----	----------------	-----	---

課名	社会教育課	事務事業名	成人式典事業
----	-------	-------	--------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)66ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<p>●新成人に大人としての自覚を促すとともに、新成人の新たな門出を祝福するため、成人式典を以下のとおり開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年1月12日(日)14:00～15:15 ハウステンボス会場にて開催(1,831人参加)</li> <li>・成人式典検討委員(ボランティア)を募集し、委員6名のほか若者活躍・未来づくり課と協働して取り組みました。</li> <li>・協賛企業によるノベルティプレゼントを入国時に配布しました(約1,600セット)</li> <li>・佐世保西高、北高の写真部の協力を得て、園内6カ所のフォトブースで約2,000枚を撮影し、好評を得ました。</li> <li>・市長突撃インタビュー撮影とインスタ配信(全5回、平均5,500回視聴)は事前周知の手段としても有効でした。</li> </ul> <p>関係企業・団体の協力を得て着付け直しブースを新設(15人+α利用)、利用者・協力者ともに好評でした。</p> <p>●実施後のアンケート調査では、8割以上の参加者がハウステンボスでの今後の開催を希望しており、若者にとって特別な思い出として記憶に残る式典となっています。</p>	

課題	Check
<p>●成人式は市内各地区でも行われており、社会教育課が所管する行政主催事業として、市全域を対象とした統一的な成人式典のあり方の整理が必要です。</p> <p>●ふるさとへの誇りや愛着(シビックプライド)の醸成にも大きく寄与しており、若者の地域定着や今後の市政参画のほか、転出した若者の交流人口化を促す観点からも、市の魅力を発信する行事としての戦略化が必要です。</p>	

原因	Check
<p>成人に対する価値観や考え方が多様化していることから、成人式典自体がすべての人にとって意味があるイベントとは限らなくなったと考えられます。</p>	

解決策と効果	Action
<p><b>【解決策】</b> 魅力的な式典にするための手法や、そもそもの目的について、ハウステンボスや若者活躍・未来づくり課と協働して整理し、行政事業としての成人式典の目的を明確化を図ります。</p> <p><b>【成果】</b> 単なる定例行事でなく、本市の魅力発信、若者の地域定着や今後の市政参画のほか、転出した若者の交流人口化を促すなど、若者を中心としたシティブランディングに寄与する事業として確立します。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	-
----	----------------	-----	---

課名	学校保健課	事務事業名	子どもの安全対策事業
----	-------	-------	------------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)67ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
子どもを事故から守る協議会や子ども110番の家との連携を密にし、学校・家庭・地域社会が協力・連携して組織的な安全教育活動の展開を図っています。	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●登下校時における通学路の安全対策(防犯含む)は喫緊の課題であり、関連諸機関等地域社会との連携協力体制について一層の強化が必要です。</li> <li>●児童生徒の事故(生活事故・非行事故・交通事故・犯罪被害など)の対応が必要です。</li> <li>●学校、家庭、地域社会の連携のさらなる強化が必要です。</li> <li>●児童生徒の事故が増加する中で、通学路の安全確保に関する取組としての『佐世保市通学路交通安全プログラム』により、学校、保護者、自治会、道路管理者、警察などが参加する合同点検を実施し、関係機関との連携をさらに深めていく必要があります。</li> </ul>	

原因	Check
<p>子どもは大人に比べて、危険を判断する能力や交通ルールを理解する能力が未熟で、また衝動的な行動をしがちです。そのため、交通事故や生活事故等に遭うリスクが高くなります傾向があることから、子どもたちの生命と安全を守るために各種の取組が必要となります。</p>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校、家庭、地域社会との連携を図りながら、子どもが安全で充実した生活を送れるように引き続き事業を実施していきます。</li> <li>●危機管理マニュアルの更新と、通学路の再点検、通学路指定道路の再確認を行うよう各学校に指導していきます。</li> </ul>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	-
----	----------------	-----	---

課名	学校保健課	事務事業名	学校保健管理事業
----	-------	-------	----------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)68ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
園児、児童生徒及び教職員の健康診断、健康管理実施並びに学校環境衛生の適正を図っています。	

課題	Check
<p>●働き方改革が進む中でも、教職員は多様な児童生徒・保護者への対応、仕事の多忙感から生じるストレスは大きく、教職員のメンタルヘルスの充実に努めていく必要があります。ストレスチェック受検率アップと高ストレス者が専門医への受診がしやすい環境づくりが必要となっています。</p> <p>●特別な配慮や、医療機関との連携・医療的なケアを要する児童生徒が増加傾向にあり、医療機関等外部の機関と連携をする必要性が高まっています。外部機関との連携がスムーズにできるよう支援することが必要です。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったものの、今後も感染症対策への配慮が求められ、また、いわゆるアフターコロナの児童生徒へのメンタルヘルスケアの重要性もさらに高まっています。必要に応じて、専門家の支援が受けられるようにすることが必要です。</p>	

原因	Check
<p>●教員のメンタルヘルス対策は、教員自身だけでなく、児童生徒の教育、学校全体の活性化にも不可欠です。教員がメンタルヘルスの不調を抱えた場合、教育の質低下、業務遂行への支障、さらには、他の教員への波及による、学校全体の機能不全を招きかねません。</p> <p>●児童生徒のメンタルヘルスは、成長と発達、そして将来の生活に大きな影響を与えるため、非常に重要です。学校生活における各種の問題などが、心の健康に影響を与え、それが学力低下に至る可能性もあります。そのため、児童生徒のメンタルヘルスをサポートし、良好な心の状態を維持・促進することは、子どもたちの幸福と社会全体の成長にとって不可欠となっています。</p>	

解決策と効果	Action
<p>●教員のメンタルヘルスケアの充実に努めるため、管理職等にストレスチェック受検の必要性、結果の有効な活用と高ストレス者が専門医受診をしやすい環境づくりができるよう年度当初に説明し継続して働きかけていきます。</p> <p>●特別な配慮や医療的なケアを必要とする児童生徒に加え、メンタルヘルスにおいても、個々のニーズに応じた外部機関との連携ができるよう、専門機関の紹介や連絡調整など支援していきます。</p>	

# 点検・評価シート【事務事業】/令和6年度

施策	政策を支える包括的な事務事業	KPI	-
----	----------------	-----	---

課名	学校保健課	事務事業名	学校給食事業
----	-------	-------	--------

事業内容・事業目的	教育振興基本計画(第4期)69ページ参照
-----------	----------------------

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 献立作成、食材発注、調理、配送等、学校給食全般にかかる事業を行っています。</li> <li>● 給食施設の維持管理として、各種設備点検や計画的な設備機器更新を行い適切な管理運営を実施しています。</li> <li>● 給食に従事する職員が、衛生面を常に留意し、安全でおいしい給食を提供しています。</li> <li>● 学校給食費の公会計化により、学校給食費の徴収、管理業務を行っています。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校給食を活用した食育の推進と調理施設等の衛生管理の徹底が求められていますが、老朽化した施設・設備が多く、学校給食衛生管理基準に対応し、安心安全な給食を提供するために、計画的な更新・改善が必要となってきました。</li> <li>● 学校給食を「生きた教材」として活用し、食に関する実践的な指導の充実と、アレルギー対応の面においても「安全性最優先」確立に向け、アレルギー対応マニュアルに即した内容に対応できる調理設備の整備を進める必要があります。</li> <li>● 地産地消の推進のため、各関係機関との連携強化が必要となります。</li> <li>● 近年の食材費の高騰に伴い、学校給食費の額の見直しが必要となっています。</li> <li>● 学校給食費の公会計化に伴い、市直轄で徴収業務を行っていますが、督促・催告を行っても未納となるケースが多く発生しています。滞納案件に対しては、法的手続きを行っており、長期滞納案件の減少に努めていますが、そのようになる前の初動対応が重要です。</li> <li>● 育ち盛りの中学生の学校給食については、生徒の栄養バランスの取れた食事の確保、保護者の経済的負担の軽減に加え、子育て支援、少子化対策など、様々な観点から無償化の必要性が高まっています。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校給食は、児童生徒の健康増進、食習慣の育成、豊かな人間関係の醸成など、様々な側面で教育に貢献する重要な役割を担っています。</li> <li>● 栄養バランスの取れた食事を提供することで、成長期の児童生徒の心身の発達をサポートし、健康な食生活を営むための基礎を築くことが可能となります。また、給食の時間は、共同作業やコミュニケーションを通じて、協調性や社会性を育む場としても重要な役割を持っています。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 給食室の調理場や備品類の老朽化に対応するため、機器の更新手続きに対応していくとともに、施設集約等の検討を行います。</li> <li>● 給食費を負担している保護者に学校給食のあり方や給食費について理解してもらい、未納者の減少に努めます。</li> <li>● 給食費未納者に対して、督促をしても支払わない対象者へは「法的措置」をとる等の収納率向上対策に努めていますが、過年度滞納債権が重なる状況に対する収納対策に向けた対応を継続して進めます。</li> <li>● 令和7年4月より、食材費等の物価高騰に伴い、学校給食費の増額改定を行いました。子育て世帯の支援のため、国の臨時交付金を活用しながら保護者の経済的な負担軽減を図っています。</li> <li>● 子どもたちの健やかな成長を社会全体で支援する取組の一環として、令和6年4月より市立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の学校給食費を無償化し、併せて、県立・私立学校に通う義務教育対象生徒等の保護者、アレルギーや不登校等の市立中学校の生徒の保護者に対しても経済的な負担軽減のため、学校給食費相当額助成事業を実施しています。</li> <li>● なお、学校給食費の無償化並びに学校給食費相当額助成事業の取組については、令和7年4月から市立中学校第2学年及び義務教育学校第8学年等へ拡充しており、市立中学校第1学年及び義務教育学校第7学年についても、実施に向けた検討を進めます。</li> </ul>	

## 6 学校改革

# 点検・評価シート【学校改革】/令和6年度

取組	スマート・スクール・SASEBO構想の実践
課名	スマート・スクール・SASEBO推進室
取組内容・目的	Plan 「スマート・スクールSASEBO」構想の実現に向け、ICT環境の活用に係る企画立案及び関係各課との連絡調整を行い、児童生徒が新しい時代を生き抜く創造性や社会性を身に付けるため、学校の教育DXの推進を目指します。
取組実績・事業成果(令和6年度)	Do ●文部科学省が行っている「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト(学校設置者)」で本市の状況は400点で全国1,812自治体中59位でした。  ●文部科学省が行っている「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」 A:教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 R2「88.3%」⇒R4「94.1%」(長崎県平均「89.5」全国平均「89.6」) B:授業にICTを活用して指導する能力 R2「71.4%」⇒R4「86.3%」(長崎県平均「78.6」全国平均「80.4」) C:児童生徒のICT活用を指導する能力 R2「74.4%」⇒R4「87.1%」(長崎県平均「80.1」全国平均「81.6」) D:情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力 R2「86.3%」⇒R4「92.8%」(長崎県平均「86.5」全国平均「88.1」) 全ての項目の数値が、端末導入前より向上しました。また、他の自治体と比べても高い数値となっています。
課題	Check ●文部科学省が行っている「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の結果、端末導入以降の様々な取り組みを通して、本市の教員のICT活用指導能力は向上していると言えます。しかし、「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する」能力についての肯定的回答が78.5%となっており、他の領域に比べるとやや低調な数値になっています。
原因	Check ●教員のICT活用スキルの向上が必要です。 ●ICTを適切に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る、授業観の転換が必要です。
解決策と効果	Action 【解決策】 ●ICTスキルについては、「お悩み相談」や「出前研修」など、個人の課題や学校の組織的な意識向上を図る研修を実施します。特に、協働的な学習場面については、クラウドアプリケーションの効果的な活用方法を示していくことで、教師のICTスキルの底上げを図って参ります。 ●授業観の転換については、「学びを起こす授業」について組織的かつ実践的な研修に移行します。 【効果】 ICTスキルと授業観の転換の両面から、授業改善を図ることで、児童生徒の学習意欲の向上を図ります。

# 点検・評価シート【学校改革】/令和6年度

取組	教職員の働き方改革
----	-----------

課名	学校教育課
----	-------

取組内容・目的	Plan
令和2年度に制定した「佐世保市立小・中学校及び義務教育学校の教育職員の業務量の適切な管理に関する規則」、令和3年5月に策定した「業務改善アクションプラン」・令和6年11月に策定した「第2期業務改善アクションプラン」に基づき、令和6年度は月あたりの超過勤務45時間超19.0%以下を目指して業務改善を図りました。	

取組実績・事業成果(令和6年度)	Do
<ul style="list-style-type: none"> <li>●統合型校務支援システム(C4th)の「出退勤」を利用した勤務時間の見える化を図り、教職員一人一人が自身の超過勤務状況を把握できるようにしました。</li> <li>●スクールサポートスタッフの配置(R4)、給食の公会計化(R4)、統合型校務支援システムの導入(R5)等、具体的な継続した実践が軌道に乗り、少しずつではありますが改善傾向にあります。</li> <li>●令和5年度まで実施してきたワーキンググループ(副校長・教頭)に令和6年度は教諭(教務主任等)を加えて実施し、その意見交換会からの提言をもとに、各学校や教育委員会と情報を共有し、各種提出文書の削減や様式の簡素化、報告方法の変更(電子媒体)など超過勤務時間削減へとつなげました。</li> </ul>	

課題	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐世保市立の教職員全体として、超勤時間は確実に減ってはいるものの、令和6年度は45時間超は小学校6.9%、中学校が38.4%、義務教育学校が4.8%、全体としては18.0%となり、年々減少はしているものの、目標を達成することができませんでした。</li> </ul>	

原因	Check
<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校は、特に部活動指導による超過勤務や、これまでの遅くまで業務を行う学校文化が払しょくできていないことに原因があると考えられます。</li> <li>●職種別では教頭の超過勤務が多いことに原因があります。</li> </ul>	

解決策と効果	Action
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「令和10年までに、45時間超を0%を目指す」という数値目標を設定し、まずは「令和7年度までに年間540時間を超える教職員の割合を0%にする」ことを目指します。</li> <li>●これまでの実践(SSSの有効活用、給食の公会計化、校務DXの推進、調査・照会の精選、部活動の地域移行の推進)を確実に実施継続します。</li> <li>●副校長・教頭の超過勤務時間の削減のため、副校長・教頭業務の見直しを図ります。</li> <li>●生成AIの校務への積極的導入を図ります。各学校で有効活用した事例を集約し、各校へ周知します。</li> </ul>	

# 6月定例教育委員会 (報告)

- ① 令和7年度佐世保市少年の主張大会について（社会教育課） …… P 1～P 2
- ② 令和7年度佐世保市中学校体育大会の結果について（学校保健課） …… P 3～P 4

## 令和7年度 「佐世保市少年の主張大会」実施要項

## 1 大会趣旨

中学生が日常生活の中で感じていること、考えていること、家庭や社会で自分の果たすべき役割、また、社会に対する希望や未来への提言、夢などを「少年の主張」として発表することにより、同世代の少年の意識を高め、現代の少年に対する市民の理解を深めるとともに、ふるさと「佐世保」の明日を担う若い世代の健全育成を図ることを目的とする。

## 2 主催

佐世保市青少年育成連盟 佐世保市教育委員会

## 3 後援（順不同・予定）

佐世保市 佐世保市議会 長崎新聞社 佐世保市社会福祉協議会 佐世保中央ライオンズクラブ 佐世保市PTA連合会 佐世保市子ども会育成連絡協議会 日本郵便株式会社佐世保郵便局 テレビ佐世保

## 4 日時

令和7年7月12日（土）12：00～16：20

## 5 会場

体育文化館コミュニティセンター 5階ホール

## 6 大会参集者

各地区青少年育成会関係者 各地区自治協議会関係者 教育委員会関係者 学校関係者 PTA関係者 一般市民等

## 7 応募要領

（1）応募資格 市内中学生（市内各中学校 義務教育学校 佐世保特別支援学校より代表1名）

（2）原稿の内容等

主張内容

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- ・テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。

以上の3つの中のいずれかに該当し、心に思い、考えていることや感じていること、また感動したことなどを少年らしい自由でユニークな飾り気のない言葉でまとめたもの。

（3）発表原稿の文章量は400字詰原稿用紙（B4版）で4枚程度（口頭発表で5分30秒以内）

（4）当日持参する発表原稿は、手書きの原稿用紙でもPCで入力した原稿用紙でもよい。

（5）提出物

- ① 6月6日（金）までに、各校発表生徒の氏名・学年・テーマを別紙「推薦書」で社会教育課まで提出する。
- ② 事前に「word様式の原稿」を「データ」にて各学校に送付するので、発表原稿と同じ内容を、その様式に入力し、7月2日（水）までに「データ」で事務局に送信する。

- ③ 大会当日は、ステージ発表で使用する原稿を1部持参する。持参する原稿は「手書き原稿」でも「PCで入力した原稿」でもよい。ただし7月2日（水）までに提出した「word様式の原稿」と同じ内容のものとする。

## 8 表彰

- (1) 優秀な発表者には、各賞並びに記念品を贈り表彰する。(11名)  
(2) 参加者全員には、記念品（メダル）を贈る。

## 9 県大会への推薦・出場

- (1) 大会最優秀者1名（市長賞）は市の代表として、長崎県青少年育成県民会議へ推薦し県大会に出場する。  
(2) 第47回「少年の主張長崎県大会～私の主張 2025」（主催 長崎県青少年育成県民会議）  
① 日時 令和7年8月20日（水）13:00～16:00  
② 会場 長崎ブリックホール国際会議場（長崎市）

## 10 その他

- (1) 受付開始時間等、詳細については、後日お知らせします。  
(2) 中学生運営スタッフについては、後日、該当地区、該当校には依頼文書を送付します。  
(3) 傍聴者の人数制限等はありません。  
(4) 申し込み・問い合わせ先

事務局 佐世保市教育委員会 社会教育課指導係 Tel 24-1111（内線3122） FAX 37-6137 担当：佐藤・中島 Email syakai@city.sasebo.ig.jp
---------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和7年度 佐世保市中学校体育大会  
成績一覧表（個人の部）

競技種目	期日	種別	県枠	1位		2位		3位・4位			
卓球	14・15	男子シングルス	4	尾崎 洸	崎辺	松本 孝汰	吉井	福田 琉太	佐々	大串 理仁	崎辺
		女子シングルス	4	山口 芽衣	佐々	山崎 桃花	早岐	岡田 そら	佐々	前田 葉奈	佐々
ソフトテニス	7・8	男子	4	井上 結斗	鹿町	池田 颯輝	佐々	松下 拓	佐々	長尾 拓馬	愛宕
				吉浦 湊人		一ノ瀬 利仁		前川 龍之介		山口 成樹	
		女子	4	福田 真佑	吉井	山口 寧々	佐々	山口 七海	小佐々	佐野 ことみ	中里
				永留 雛		上ノ原 咲和		田島 瑠夏		富永 知花	
体操		男子	4								
		女子	4								
新体操		女子	4								
剣道	7	男子	2	近藤 心寿	相浦	横岩 守里	相浦	小森 燈矢	相浦	松下 大夢	早岐
		女子	2	宮崎 碧	日宇	深水 清伶	早岐	南 穂花	早岐	前田 美咲	崎辺
柔道	8	男子50kg級	1	佐伯 和馬	相浦	早瀬 貫太	相浦	浦田 獅王	大野	池田 大洋	崎辺
		男子55kg級	1	佐伯 飛馬	相浦	早瀬 鉄汰	相浦	ジャクソン エイダン 健	愛宕	川内野 春綺	吉井
		男子60kg級	1	畝原 悠	相浦	小林 泰己	祇園	日数谷 彪	小佐々		
		男子66kg級	1	池村 悠	愛宕	前岳 圭之丞	吉井	徳島 彪生	小佐々		
		男子73kg級	1	深江 清仁	小佐々	牟田 飛龍	大野	平野 蒼天	広田	佐野 來毅	日宇
		男子81kg級	1	重川 瑠良	相浦						
		男子90kg級	1	中里 泰造	相浦	野元 惺剛	吉井				
		男子90kg超級	1	梅田 律	中里						
		女子40kg級	1	前川 華愛	小佐々						
		女子44kg級	1	大西 依音	小佐々						
		女子48kg級	1	浅田 綺海	愛宕						
		女子52kg級	1								
		女子57kg級	1	松田 祐佳	小佐々						
		女子63kg級	1								
		女子70kg級	1								
女子70kg超級	1	浦田 鈴菜	大野	作本 海空	愛宕						
バドミントン	7	男子シングルス	4	溝口 元気	日野	山口 翔司	鹿町	福田 生織	日野	高橋 航汰	浅子小
		女子シングルス	4	椎葉 絢音	愛宕	古賀 野々花	清水	田崎 由菜	日野	福岡 結衣	清水
		男子ダブルス	4	中村 太翔	早岐	後藤 奏佑	早岐	吉田 泰雅	清水	田代 雄心	柚木
				林田 淳志		迎 悠		福田 啓太			
女子ダブルス	4	藤瀬 莉乃	相浦	中間 梓巴	中里	中間 那月	中里	内野 由麻	清水		
		坂口 瑠菜		浦 ゆりあ		中間 彩日		田中 摩耶			
空手道	8	男組手	4	須加崎 達	相浦	大久保 玲音	佐世保北	吉田 結俐	大野	松尾 大嘉	日宇
		女組手	4	佐々野 結	祇園	野中 美里	大野	田嶋 美悠	山澄	加藤 心美	大野
		男形	4	中里 淳之介	佐世保北	杉本 慶太	大野	大久保 玲音	佐世保北	鹿毛 蓮志	広田
		女形	4	原口 結衣	早岐	辻 美空	早岐	田嶋 美悠	山澄	柳田 珠笑琉	相浦

令和7年度 佐世保市中学校体育大会

成績一覧表（団体の部）

番号	競技種目	会場	期日	性別	県枠	1位	2位	3位	
1	陸上	総合グラウンド 陸上競技場	7・8	男子		日宇	佐世保北	中里	
				女子		日宇	中里	佐々	
2	水泳	佐世保市温水プール	8	男子					
				女子					
3	バスケットボール	体育文化館 祇園中	8・14・15	男子	2	日宇	祇園	清水	大野
				女子	2	祇園	福石・崎辺	広田	早岐
4	卓球	総合グラウンド体育館	14・15	男子	2	崎辺	佐々	吉井	早岐
				女子	2	佐々	早岐	相浦	小佐々
5	ソフトテニス	総合グラウンド テニスコート	7・8	男子	2	佐々	吉井	早岐	日野
				女子	2	佐々	吉井	小佐々	中里
6	バレーボール	小佐々スポーツセンター 佐々町民体育館 広田中学校	7・8	男子	1	広田	東明	清水	佐々
				女子	2	聖和	宮・中里・東明	日野	佐々
7	体操			男子	2				
				女子	2				
8	剣道	県立武道館	7	男子	1	相浦	佐世保北	早岐	
				女子	1	早岐			
9	柔道	県立武道館	8	男子	1	相浦	吉井	大野	
				女子	1	小佐々	愛宕		
10	ソフトボール			女子	1				
11	バドミントン	男子:小佐々スポーツセンター 女子:総合グラウンド体育館	5月24日	男子	4	早岐	日野	清水	柚木
				女子	4	中里	清水	小値賀	相浦
12	ハンドボール	相浦中	14・15	男子	2	日宇	大野		
				女子	5	相浦	日宇	柚木	大野
13	軟式野球	総合グラウンド野球場 吉井球場・千鳥越野球場 佐世保実業	7・8・ 15	男子	2	愛宕	日宇	相浦	山澄
14	サッカー	東部スポーツ広場 小佐々中央運動広場 総合グラウンド陸上競技場	7・8・14	男子	2	広田	中里	佐世保北・佐々	山澄
15	空手道	江迎中学校	8	男組手	2	相浦	大野	早岐	佐世保北
				女組手	2	山澄	大野	中里	早岐
				男形	2	佐世保北	大野	柚木	相浦
				女形	2	山澄	大野	相浦	佐々
16	駅伝	総合グラウンド 陸上競技場周辺		男子	2	10月1日（水）開催			
				女子	2				